

# 2007 年度夏季日本語教育実習報告書

(名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻)

## 実習生

サウエットアイヤラム・テーウィット

初恵珠

陳曉貞

ディルルクシ・ラトナーヤカ

魏志珍

元春英

古賀恵美

テイラー・レベッカ

野田大志

# 目次

第1章 概要	1
1.1 はじめに	1
1.2 実習の特徴	1
1.3 コース概要	2
1.3.1 クラス設定	2
1.3.2 日程	2
1.4 実習全体の流れ	3
第2章 各係の仕事	9
2.1 渉外外部	9
2.1.1 関係諸機関と連絡方法	9
2.1.2 渉外活動	9
2.1.3 学習者（ALT）と連絡方法	13
2.1.4 渉外活動	13
2.1.5 反省点	15
2.2 渉外内部・備品・会計	15
2.2.1 授業用の教室及び設備について	16
2.2.2 ティーパーティーの教室について	16
2.2.3 録画機器の確保について	17
2.2.4 教材の購入	17
2.2.5 備品	18
2.2.6 会計	19
2.2.7 反省点	20
2.3 文章作成	20
2.3.1 仕事の内容	20
2.3.2 仕事の流れ	21
2.3.3 反省点	22
2.3.4 文書	22
2.4 報告書・web	48
第3章 クラス概要	50
3.1 花クラス	50
3.1.1 学習者について	50

3.1.2	コース概要	50
3.1.3	授業報告	53
3.1.4	まとめ	62
3.2	鳥クラス	64
3.2.1	担当実習生	64
3.2.2	クラス目標	64
3.2.3	学習者	64
3.2.4	学習者のニーズ・レディネス	65
3.2.5	シラバス	68
3.2.6	テキスト	68
3.2.7	授業内容	69
3.2.8	鳥クラス全体の反省	82
3.3	風クラス	84
3.3.1	担当実習生	84
3.3.2	クラス目標	84
3.3.3	学習者	84
3.3.4	テキスト	84
3.3.5	学習者のニーズ・レディネス	84
3.3.6	シラバス	85
3.3.7	授業内容	86
3.3.8	風クラス全体の反省	95
3.4	月クラス	96
3.4.1	担当実習生	96
3.4.2	クラス目標	96
3.4.3	学習者	96
3.4.4	学習者のニーズ・レディネス	97
3.4.5	シラバス	97
3.4.6	テキストの編集	98
3.4.7	授業内容	98
3.4.8	月クラス全体の反省	107
第4章	まとめ	109

# 第1章 概要

## 1.1 はじめに

2007年度名古屋大学夏季日本語教育実習は、7月30日から8月3日まで、5日間にわたり行った。学習者募集、ニーズ分析、コースデザインなど、すべて実習者が担当した。

本実習は JET(Japan Exchange and Teaching)プログラムを管理する名古屋市教育委員会と、ALT(Assistant Language Teacher)を派遣する民間派遣会社(株)アルティアセントラルの協力のもとで行われた。名古屋市教育委員会には1989年より18年間、(株)アルティアセントラルには2005年から3年間協力をいただいている。

また、本実習に参加する学習者は主に名古屋市(そのほか、岐阜県、三重県、静岡県など)にある小・中学校、高等学校で勤務するALTである。

(担当:初)

## 1.2 実習の特徴

本実習の特徴を以下に述べる。

まず、そのポイントを(1)から(4)に示す。

- (1) 期間 : 短期集中コースである
- (2) 参加者共通属性 : 英語母語話者  
職種が同じ(小・中・高等学校のALT)
- (3) 教材自主作成 : 学習者レベルに合わせ実習者が作成する
- (4) 教授形態 : 原則としてすべての学習者に直説法で指導する  
チームティーチングを行う

(1)に関してはALT自主参加のため、彼らの夏季休暇期間に合わせ、参加者が最も多い期間に設定した。各授業の関連性を高めるため、かつ参加者意欲を維持するために、5日間の短期集中コースとした。(なお、鳥・風・月クラスは、5日目は午前中に授業を行い、午後は授業外のイベントとして書道の練習を行った。)

(2)はコースデザインにおいて重要な点となった。(詳細は次節で述べる。)

(3)に関して、本実習におけるコースデザインは、実習生にとって、学習者が求める授業を模索し、提供するケーススタディーとしての意味合いもあった。そのため、ニーズ分析に基づいたシラバスデザインおよび教材作成を経験すべく、実習生自身で教材を作成した。(それぞれのクラスの使用教材については3章で詳述する。)

(4)に関連して、5日間すべての授業を一貫性のあるものにするため、各レベル(に基づいて設定された各クラス)毎に担当者を固定することとした。

(担当：ディルルクシ)

### 1.3 コース概要

#### 1.3.1 クラス設定

WEB アンケート、インタビューの2つの事前調査の結果、4つのコースを設定することにした。クラスを日本語能力の高い方から順に、花クラス・鳥クラス・風クラス・月クラスと名づけた。以下に担当者とクラス構成を記す。

クラス	担当者	人数	出身構成 ( )内は人数
月	サウェットアイヤラム・テーウィット、 初恵珠	3名	アメリカ(1)、イギリス(1)、カナダ(1)
風	陳曉貞、ディルルクシ・ラトナーヤカ	2名	オーストラリア(1)、カナダ(1)
鳥	魏志珍、元春英、古賀恵美	7名	アメリカ(2)、イギリス(3)、 オーストラリア(1)、カナダ(1)
花	野田大志、テイラー・ラベッカ	3名	イギリス(1)、オーストラリア(1)、カナダ(1)

#### 1.3.2 日程

2007年7月30日(月)から8月3日(金)の5日間を正規授業、8月3日(金)の午後に日本文化を体験するための習字(花クラスを除く)と、コースについての感想を発表することを含め、全てのクラスの学習者と実習生がクラスの区別をこえて交流するためのイベント(ティーパーティー)を企画した。以下に簡単なスケジュールを提示する。(各クラスごとの具体的なスケジュールについては、第3章を参照されたい。)

	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
1限 60分	オリエンテーション	授業	授業	授業	授業
2限 50分	授業	授業	授業	授業	授業
3限 60分	授業	授業	授業	授業	習字
4限 60分	授業	授業	授業	授業	イベント

印は全クラスの合同時間(習字は鳥・風・月クラスの合同時間)

なお、教室は名古屋大学文型総合館の609教室、610教室、611教室、612教室、623教室、624教室を使用した。また、オリエンテーションと習字は609教室、イベント(ティーパーティー)は624教室で行った。

(担当:元)

#### 1.4 実習全体の流れ

以下、教育実習の準備段階から報告書の作成までの間に行った作業、ミーティング及び活動について月別に報告する。表内()には主な担当者を明記した。

担当者: 渉外外部(渉外)、渉外内部(渉内)、会計(会)

文書作成(文)、報告書・Web(報)

2007.4			
1 (日)		17 (火)	メーリングリスト作成 係りの仕事分担,担当者決定,議事録担当者決定(報)
2 (月)		18 (水)	
3 (火)		19 (木)	
4 (水)		20 (金)	
5 (木)		21 (土)	
6 (金)		22 (日)	
7 (土)		23 (月)	

8 (日)		24 (火)	
9 (月)		25 (水)	
10 (火)		26 (木)	
11 (水)		27 (金)	教育委員会担当者の方にご挨拶(渉外)
12 (木)		28 (土)	
13 (金)		29 (日)	
14 (土)		30 (月)	
15 (日)			
16 (月)			

2007.5			
1 (火)	コース名、開講日、クラス時間、開講クラス案決定	17 (木)	
2 (水)	アルティアセントラル担当者にご挨拶(渉外),HP内容検討	18 (金)	名古屋大学総合文系館周辺地図作成(渉外)
3 (木)	憲法記念日	19 (土)	
4 (金)	みどりの日	20 (日)	Q&A 日本語版完成(文)
5 (土)	子どもの日	21 (月)	募集案内チラシ,Q&A 作成締め切り(文)
6 (日)		22 (火)	募集案内チラシ、Q&A 教育委員会へ送付(渉外),HPビルダー届く
7 (月)		23 (水)	
8 (火)	開講日変更,募集チラシ,Q&A 内容検討	24 (木)	
9 (水)	ニーズ・レジネス調査アンケート案完成(渉内)	25 (金)	

10 (木)		26 (土)	
11 (金)		27 (日)	
12 (土)		28 (月)	JET にチラシ配布, アンケート英語版案作成(文)
13 (日)		29 (火)	クラス担当決める[暫定]、図書購入期限の連絡(渉内)
14 (月)		30 (水)	
15 (火)	アンケート内容話し合い(渉内), インタビュー日程決定(渉外), 募集チラシ完成・Q&A内容検討(文書), 協力金の金額決定	31 (木)	アンケート日本語版・英語版完成(文), アンケートの締切りを6月18日に延期する。
16 (水)			

2007.6			
1 (金)		17 (日)	
2 (土)		18 (月)	愛知県 ALT 参加希望者締切(2回目)
3 (日)		19 (火)	インタビュー手順決定、インタビュー時間・担当者のお知らせ(渉外)
4 (月)	参加希望者締切(1回目)	20 (水)	
5 (火)		21 (木)	
6 (水)		22 (金)	
7 (木)		23 (土)	
8 (金)	募集チラシ, Q&A, 地図コピー(渉内)	24 (日)	
9 (土)		25 (月)	アンケート締切り(2回目), 名古屋市 ALT インタビュー
10 (日)		26 (火)	各クラス担当教師決定、学習者のクラス分け決定[暫定]

11 (月)	アンケート返信締切(1回目) 名古屋市内 ALT 参加呼びかけ	27 (水)	
12 (火)		28 (木)	机エンテ-ション担当者打ち合わせ
13 (水)		29 (金)	開講期間の教室予約(渉内)
14 (木)		30 (土)	
15 (金)			
16 (土)	愛知県内 ALT へ参加呼びかけ		

2007.7			
1 (日)	7月1日~開講日 クラスごとに話し合い(目標、カリキュラム、教材等)	17 (火)	
2 (月)		18 (水)	
3 (火)	コピーカード使用についての連絡 (渉内),机エンテ-ション内容について話し合い	19 (木)	
4 (水)		20 (金)	
5 (木)	7月5日~7月20日 随時学習者への電話フォロー	21 (土)	
6 (金)		22 (日)	参加者への確認メール送付(渉外)
7 (土)		23 (月)	
8 (日)		24 (火)	必要文具のとりまとめ(渉内)
9 (月)		25 (水)	
10 (火)		26 (木)	文具購入(報),交通費・電話代諸経費 まとめ(会),机エンテ-ション担当者打ち合わせ

11	(水)		27	(金)	習字道具納入(渉内)
12	(木)		28	(土)	ALT呼称リスト作成(文)
13	(金)		29	(日)	
14	(土)		30	(月)	NU Intensive Japanese Program2007  10時~15時
15	(日)		31	(火)	
16	(月)	海の日			

2007.8		
1	(水)	NU Intensive Japanese Program 2007  *終了パーティの買出し
2	(木)	
3	(金)	
4	(土)	
5	(日)	
6	(月)	名古屋市教育委員会担当者の方へお礼の電話,参加者ALTへのお礼メールと写真送付
7	(火)	運営金報告(会)
8	(水)	アルティアセントラル担当者の方へお礼のメール

・ 2008年1月15日

実習報告書作成のための打ち合わせにて、報告書の構成及び執筆担当を決定した。

・ 2008年2月22日

各執筆担当部分を報告書担当者へ送付した。(この日以降に、報告書担当者は各文書の内容・構成を確認し、加筆・修正作業を進めた。)

(担当：古賀)

## 第2章 各係の仕事

### 2.1 渉外外部

渉外担当は、学外の機関との連絡を担当する。本実習では、学習者募集に際して、ALTを管轄する2機関と学習者(ALT)との連絡を主に担当した。以下に関係諸機関と仕事の経緯を報告する。

#### 2.1.1 関係諸機関と連絡方法

##### (1) 名古屋市教育委員会

名古屋市の中学校、高等学校に派遣されるALTはその所属が名古屋市教育委員会、民間の派遣会社とに分かれる。名古屋市教育委員会はJETプログラムを管轄する機関であり、JETプログラムのALTに関わる業務を行っている。この業務は、名古屋市教育委員会(学校教育部指導室)と「名古屋市教育センター分館(教育館)」の2か所で行われており、「教育館」では2週間ごとにJETプログラムのALTミーティングが開かれている。

実習生と教育委員会側との連絡は、主に電話である。学習者募集の際、名古屋市教育委員会の担当者(鬼頭主事)に協力をお願いをし、鬼頭主事から民間派遣会社へ連絡していただいた。

##### (2) 株式会社アルティアセントラル

名古屋市、愛知県内(名古屋市以外)の小中学校、高等学校のALTの派遣業務を行っている。担当者(山口氏)の方との連絡方法は電話、メールであった。社内ではメールリストが完備されており、山口氏からALTのスーパーバイザーを通しALT全員へ一斉に情報を流していただいた。学習者募集について、当初は名古屋大学にアクセスしやすいと思われる名古屋市内のALTに募集をかけていたが、希望者が少なかったため、愛知県内のALTにも募集案内をすることにした。名古屋市内、三河地区、岐阜県、福井県(アルティアセントラル所属のALTの知人)などのALTが参加することになった。

### 2.1.2 渉外活動

4月27日(金)

渉外内容:名古屋市教育委員会 学校教育部指導室 指導主事鬼頭主事に挨拶、ALTミーティングの予定募集チラシ配布方法、アルティアセントラルへの連絡方法について伺う。

渉外方法:電話

ALTの7,8月の予定を確認

ALT のミーティングの日時と場所を確認

毎月第 2、第 4 月曜日、15 時～15 時半、場所は名古屋市教育センター分館（教育館）

募集案内チラシ配布方法についての相談

夏季日本語実習コースについて説明に伺いたいと申し出たが、実習コース実施期間に日本にいる ALT は 8 名のみなので、鬼頭主事が ALT に呼びかけてくださることになった。募集案内チラシは 5 月 14 日頃に郵送するとお伝えした。（募集案内チラシは鬼頭主事、ALT 人数分を用意）

アルティアセントラルへの募集案内チラシの配布方法についての確認

鬼頭主事からアルティアセントラルの担当者の方に FAX で連絡していただくことになった。

鬼頭主事より「参加を希望する ALT とは直接やりとりを行って欲しい」と申し出があった。

#### 5月2日(水)

涉外内容：アルティアセントラル 山口氏に挨拶及び ALT 人数、ALT のスケジュール、ミーティング日程について伺う。

涉外方法：電話

ALT の人数、滞日期間について

- ・人数：名古屋市内 26 名、名古屋市を除く愛知県内 約 40 名
- ・滞日期間：名古屋市の ALT は 2 年以上、愛知県内の場合、滞日年数は様々、ただしゼロ初級はいない ALT の 7、8 月の予定を確認。7 月 25 日～27 日、8 月 6 日～8 月 8 日に 2 グループに分かれて小学生対象の英会話コースが実施される予定

ALT のミーティングの日程を確認

名古屋市内 ALT 毎月第 2、第 4 月曜日、15 時～16 時半、場所は、愛知県青年会館

#### 5月21日(月)

涉外内容：名古屋市教育委員会 鬼頭主事にコース開始日、5 月 22 日に募集案内のチラシを郵送することを伝える。参加希望者へのインタビューを承諾していただき、インタビューの日時、場所の相談する。

涉外方法：電話

#### 5月22日(火)

涉外内容：募集案内のチラシ、Q&A（日本語版 2 部、英語版 10 部）を名古屋市教育委員会 鬼頭主事に郵送する。

#### 5月25日(金)(5月29日に返信有り)

涉外内容：アルティアセントラル 山口氏にミーティング日時、参加人数のお伺い、インタビュー実施にあたってのご相談

涉外方法：メール

名古屋市内 ALT ミーティングの場所と時間、参加人数の確認

参加希望者へインタビューをしたいと告げ、インタビューの日時、場所の相談

「愛知県青年会館」会議室の使用許可をいただく。インタビューはミーティング時間前後に実施可能

6月11日(月)

涉外内容：名古屋市内の ALT へ参加の呼びかけ

涉外方法：ALT ミーティング場所「名古屋市教育センター分館（教育館）」および「愛知県青年会館」  
名古屋市教育委員会

場所：名古屋市教育センター分館教育館 2階第8研修室

<http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/somu/sisetsu/kodo/bunkanriyou.htm>

時間：15時15分～16時まで

人数：約20名、実習生 元、サウェットアイヤラム

持参書類：参加募集チラシ、Q&A、ニーズ・レジネス調査のアンケート

1階講師控え室にて担当者に挨拶、名刺交換。その後、第8研修室に移動し、ミーティング終了後、担当者から実習生が紹介され、時間を利用し、英語でサウェットアイヤラムが実習プログラムについて説明を行った。説明を聞いていた ALT20名のうち1名が希望し、その場でニーズ・レジネス調査のアンケートへの記入を依頼した。

アルティアセントラル

場所：愛知県青年会館 <http://www.aichi-seinenkaikan.or.jp/>

時間：16時～16時45分

人数：ALT 約26名、実習生 古賀、野田、テイラー

持参書類：参加募集チラシ、Q&A、ニーズ・レジネス調査のアンケート

ミーティングは3つの会議室で行われており、ミーティング終了後、実習プログラムについての説明を行うので、興味がある人は第3会議室に移動していただくよう ALT に伝える。8名の ALT が集まり、テイラーが英語で実習プログラムの概要を説明。3名が実習プログラムへの参加を希望した（昨年の受講者）。希望者には、その場でアンケートに記入してもらった。「アンケートが長い」、「スーパーバイザーから本実習プログラムの参加募集のお知らせを受け取ったときには、既に募集締め切り日を過ぎていたため、返信できなかった」との意見が出た。

16時半を過ぎ、青年会館の事務所から、そのまま会議室を継続して使用する場合は延長料金が発生すると連絡が入ったため、速やかに退出した。

6月12日(火)

涉外内容：アルティアセントラル 山口氏へ愛知県内 ALT のミーティングで参加募集をしたいと伝え、承諾を得る。ミーティングの場所と時間を確認

涉外方法：電話

日時：6月16日(土)9時30分～(受付9時～)

場所：名駅イースト名古屋駅前中央店 名古屋市中村区名駅3丁目13-31

・募集案内チラシと Q&A は当日実習生が持参し、受付にて ALT 全員に配布する。

・6月16日(土)山口氏が出張で不在のため、総務課 井戸氏が代わりに対応して下さる。

#### 6月16日(土)

渉外内容：アルティアセントラル所属の愛知県内 ALT へ参加の呼びかけ

渉外方法：訪問、面会

場所：名駅イースト名古屋駅前中央店

ミーティング参加予定者 約 80 人

実習生参加者 初、古賀、野田、テイラー

当日の流れ

ミーティング受付 9時~9時半 オープニング 9時半~9時45分

会議 9時45分~

アルティアセントラルがチラシと Q&A を準備し、受付で ALT へ配布して下さった。ミーティングは2つの会議室で行われていた。オープニングの時間を各部屋5分ほどいただき、テイラーが英語で実習プログラムの概要を説明した。ミーティングに参加していた昨年の受講生やミーティングの司会者が「ニーズ調査、レベル分けチェックもある良いプログラムだ」と薦めてくれてこともあり、17、8人が興味を示してくれた。再募集の締切りを6月18日、アンケートの締切りを6月25日に延長した。

質疑応答

Q1:名大では駐車ができるか。

A1:調べてみる。(昨年の受講者が昨年ではできたと補足してくれた)

Q2:愛知県在住じゃなくてもいいか。

A2:はい、結構です。

#### 6月21日(木)

渉外内容：名古屋市教育委員会 鬼頭主事に参加人数(1名)の連絡、及び6月25日のインタビューの承諾を得る。集合時間と場所の確認

渉外方法：電話

渉外内容：アルティアセントラル 山口氏に参加人数(11名)及び市内 ALT へのインタビュー実施日(6月25日)の連絡。「青年会館会議室」借用のお願い

渉外方法：メール

#### 6月25日(月)

渉外内容：市内 ALT へインタビュー

渉外方法：訪問、面会

JET ALT

場所：名古屋市教育センター分館教育館、2F 第8研修室前

担当：名古屋市教育委員会 鬼頭主事

インタビュー対象者：1名 実習生：野田、テイラー

持参したもの：録音機器、インタビュー質問事項まとめ、読解用教材（読解力を把握するため）

時間：30分

鬼頭主事にご挨拶した後、インタビューを行った。

アルティアセントラル ALT

場所：愛知県青年会館、1Fロビー

インタビュー対象者：4名 実習生：魏、初、元、古賀、陳、ピン

持参したもの：録音機器、インタビュー質問事項まとめ、読解用教材

時間：ALT 1名につき約30分

\* 1名のALTからインタビュー承諾の返信がないまま当日会場に向かった。ALTに尋ねるとメールがしばらく見られなかったとのこと。予定の時間を変更し、その日にインタビューを行った。

8月6日(月)

涉外内容：名古屋市教育委員会 担当者の方に実習参加のお礼と実習が無事終了したご報告の電話。

涉外方法：電話

名古屋市教育委員会 鬼頭主事が不在であったため、伝言をお願いした。

アルティアセントラル 山口氏に電話をかけるが、不在（8月7日も同様）。

8月8日(水)

アルティアセントラル 山口氏にお礼のメールをお送りした。

### 2.1.3 学習者(ALT)と連絡方法

今回の実習では、JETプログラムと株式会社アルティアセントラルのALTに、電子メールで学習者と直接にやり取りをした。個人のメールアドレスの使用を避け、実習用のメールアドレスを設けた(nujapanese2007@yahoo.co.jp)。コースの知らせや詳細は一斉に発信するが、主には学習者個人に対する対応であった。また、インターネット接続に困難のある学習者には、携帯メールに送信したり、アンケートの返事は郵送で送ってもらったり、柔軟に対応した。さらに、学習者の要望に応じ、名古屋市でのホームステイの詳細を聞いたり、名古屋大学の駐車の手続きをしたりした。

### 2.1.4 涉外活動

5月30日(水)

涉外内容：名古屋大学留学生相談室への問い合わせ、最初に問い合わせてきたJETプログラムの学習者への返事

渉外方法：メール

名古屋大学の留学生相談室へメールを出し、名古屋市内にあるホームステイを行っている団体について問い合わせた。

最初に問い合わせしてきた学習者に返事し、問い合わせていることを教え、また他の短期ホームステイプログラムも紹介した。（結果は、この学習者は長期ホームステイがしたいとっていて、実習を断念した。）

6月6日(水) - 6月8日(金)

渉外内容：JET プログラムの学習者にアンケートを送る。

渉外方法：メール

クラス分けとコースデザインのため、アンケートが必要であるむねを学習者に伝え、アンケート票を送った。

6月16日(土) - 7月6日(金)

渉外内容：株式会社アルティアセントラルの学習者にアンケートを送る。両社の学習者にインタビューの日時を確認。

渉外方法：メール

株式会社アルティアセントラルの ALT ミーティングで呼びかけた結果、十数人の ALT から返事もらった。返事もらった ALT にすぐアンケートを出し、それから対面、或いは電話でのインタビューがあることを伝えた。最初の方は、呼びかけの当日の 12 時ごろに返事が来た。その後も続々 ALT から返事が来たが、一日 1 通ぐらいのペースであった。

株式会社アルティアセントラルでは、年 2 回のみミーティングを行うため、学習者へのインタビューはすべて学習者の都合を聞いてから決めたものであった。学習者にメールを出し、1) 対面インタビューか電話インタビューかどちらが良いか；2) インタビューのできる時間帯と場所；3) 連絡のため携帯番号を聞いた。また、学習者に返事を他の実習生に伝え、どの実習生がどの学習者にいつインタビューをするかを皆で調整した。

6月19日(火)

渉外内容：Hippo Family にホームステイの受け入れについて確認、学習者に詳細を伝える。

渉外方法：電話、メール

Hippo Family の担当者に電話し、名古屋市でのホームステイの受け入れについて（手続きや料金など）確認した。ホストファミリーを探すには、市外に住む外国人であっても、本人が国際センターにある Hippo Family の事務所に面接をしに行かなければならない。

ホームステイ希望の学習者にそのむねを伝えた。

6月23日(土)

渉外内容：名古屋大学構内の駐車について学習者に伝える。

渉外方法：メール

名古屋大学構内の駐車の手続きについて学習者に伝えた。名古屋大学構内の駐車では、1日 100 円である。事前に事務室で申請することが可能なので、学習者に自動車の車種とナンバープレートを聞い

た。事務室で手続きは鷲見先生にいただいた。また、名古屋大学のゲート位置図と車両通行図をメールに添付した。

7月14日(土)、7月18日(土)

渉外内容：新しくメールをくれた参加希望者にアンケートを送る。

渉外方法：メール

7月22日(日)

渉外内容：学習者全員に学習者への手紙と名古屋大学の地図を送る。

渉外方法：メール

学習者に1) 初日のスケジュール；2) 名古屋大学の地図を送った。また、念のため、名古屋大学までの行きかたも示した。

8月6日(月)

渉外内容：学習者にお礼のメールとクラスごとで撮った写真を送った。

渉外方法：メール

学習者に感謝のメールを送った。メールは日本語、ローマ字、英語の三つのバージョンを作った。日本語は学習者に少しでももっと日本語に触れてほしいと思い作ったものであり、ローマ字は日本語(漢字)がまだ上手ではない学習者のためにつけたものであった。英語はゼロ初級のためでもあるし、日本語の意味の確認でもある。また、最終日に撮ったクラスごとの学習者と実習生の写真も添付した。

## 2.1.5 反省点

チラシとメールを利用してALTへ参加呼びかけを行ったが、なかなか人が集まらなかったため、ALTミーティング会場に説明に向いたり、当初予定していなかった愛知県内のALTにも呼びかけることにした。その甲斐あって、14名の参加者を集めることができた。本プログラムの特色の説明、質疑応答など実際に顔を合わせての募集は多くの参加者を得るために効果があると思われる。

今回は担当者の負担均一、作業の効率化を考慮し、渉外外部担当者をALTを管轄する機関とのやりとりとALTとのやりとりの2つに分けた。作業にあたって特に大きな問題もなく計画通りに進んだ。

外部機関の方々と会議中であったり、出張に出かけられたりと、連絡が取れないことがあった。電話(携帯)、メール、FAXなど複数の活用が必要であった。

ニーズ・レディネスのアンケートは、参加者から項目が多く長いというコメントがあった。アンケートの項目を絞るなど簡易化が望まれる。

(担当：古賀・元・初)

## 2.2 渉外内部・備品・会計

学内の渉外(内部)担当は、例年実習期間に使用する教室と録画機材の確保・管理を行っている。今年度の夏季実習ではこれに加え、教材購入の申請、備品の管理、(実習の運営のために徴収した)運

営費の管理を行った。具体的な仕事内容は以下の通りである。

## 2.2.1 授業用の教室及び設備について

例年の教室使用状況と今回の参加人数（学習者 15 名、実習生 9 名、合計 24 名）を考慮し、文系総合館の 6 階の教室を使用することとした。但し、今年度の夏季実習の実施期間は例年に比べ、やや早かったため、実習の初日は大学の期末テストの最終日と重なってしまうという結果となった。その影響で、初日に使う教室と 2 日目以降に使う教室との間に少々ずれが生じた。

教室の予約は、国際言語文化研究科の事務室にて行った。事務室に教室予約用のファイルが保管しているので、教室の予約状況をまず確認し、その後、予約用の用紙に使用する日時と用途を書き込んで、実習担当教官を通じて実習予定期間と使用教室を伝えるという手順で行った。また、教室の使用許可が下りた後、使用する教室の入口に「日本語教育実習のため、〇〇日から 〇日の〇〇時まで教室をお借りします。ご迷惑をかけて申し訳ございません。」という紙を掲示した。

各クラスの人数・授業内容と教室の広さ、使用可能な機器（テレビ、ビデオ、DVD）を併せて検討した上で、使用する教室を以下のように決定した。

使用教室の内訳

クラス	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
花			612		
鳥			609		
風	610		611		
月	624		623		
609			機器なし		
610			コンピュータ実習室		
611			機器あり		
612			機器あり		
623			機器あり		

実習期間中は、各クラスの担当者に使用する教室の管理を任せた。毎朝受付で鍵を借り、使用后、各自で返却してもらった。

## 2.2.2 ティーパーティーの教室について

最終日に行うティーパーティーのため、実習参加者全員（実習生、学習者と担当教官、計 25 名）が入る部屋を確保する必要があった。昨年度の報告を参考に、文系総合館 6 階のファカルティラウンジ（624 室）を使用した。

ファカルティラウンジの予約に関しては、特に必要な手続きはなかった。日本語文化専攻助教に確認を取った後、部屋の扉に使用日時を記した紙を掲示した。また、ファカルティラウンジには大きい冷蔵庫があるため、ティーパーティーとして準備した飲み物を事前に中に保存することができる。

### 2.2.3 録画機器の確保について

本実習では、各クラスに 1 台の録画機器を設置した。そのため、日本語文化専攻所有の 2 台だけでは数が足りず、助教の先生に注文を依頼して、新しく 1 台を購入してもらった。また、担当教官にお願いして、1 台貸していただいた。

（担当：魏）

### 2.2.4 教材の購入

本年度は 4 つのクラス（上級〈花〉、中級〈鳥〉、初級〈風〉、ゼロ初級〈月〉）を設定することにしたため、各レベルに適切な参考書を用意したり、コースデザインやシラバスデザインをしたりするには必要となる書籍が異なってくる。実習生は各自で備えたほうがよいと思われる書籍を探し、それらが妥当かどうかについて実習生全員で話し合った。そして、購入を決定した書籍をリストアップし、大学の所蔵を確認したうえで、大学が所蔵していない書籍を助教の先生に申し込んだ。以下、購入した書籍のリストである。

#### 教材リスト

1	書名	語彙力ぐんぐん 1 日 10 分		
	著者	河野桐子・野口仁美・馬原亜矢		
	出版社	スリーエーネットワーク	出版年数	2003
2	書名	マンガで学ぶ日本語会話術		
	著者	金子史朗・黒川美紀子・深田みのり・宮下智子		
	出版社	アルク	出版年数	2006
3	書名	日本語を話すトレーニング		
	著者	野田尚史・森田 稔		
	出版社	ひつじ書房	出版年数	2004

4	書名	日本語文法演習 自動詞・他動詞・使役・受身-ボイス-		
	著者	安藤節子・小川響子美		
	出版社	スリーエーネットワーク	出版年数	2001
5	書名	日本語おしゃべりのたね		
	著者	沢田幸子・武田みゆき・福家枝里・三輪香織		
	出版社	スリーエーネットワーク	出版年数	2006
6	書名	日本語上級話者への道		
	著者	荻原稚佳子・増田真佐子・斉藤真理子・伊藤とく美		
	出版社	スリーエーネットワーク	出版年数	2005
7	書名	らくらく覚えてどんどん使おう絵で学ぶ擬音語・擬態語カード		
	著者	富川和代		
	出版社	スリーエーネットワーク	出版年数	1997
8	書名	J.Bridge ジェイ・ブリッジ		
	著者	小山 悟		
	出版社	凡人社	出版年数	2006
9	書名	J.Bridge ジェイ・ブリッジ		
	著者	小山 悟		
	出版社	凡人社	出版年数	2002

## 2.2.5 備品

タスクや活動をうまく進めるために必要となる文房具や録画に使用するビデオテープなどの備品の数量や種類について検討を行い、不足の物品や必要とする備品を確認した。授業の準備や実際の授業に必要な備品を買う際には、助教の先生と連絡をとり、生協と一緒に買いに行っていたくよう依頼した。以下に、本年度(2007)新たに購入した備品をリストにして示す。

### 2007年度購入備品

	物品	用途	数量
1	A4 size2 穴ファイル	教材作成	15 冊
2	ファイルボックス	ファイル整理	2 個
3	DVD - RW (120 分)	ビデオダビング用	36 枚
4	ビデオテープ(80 分、LP120 分)	授業記録	36 巻

5	マグネット棒	授業用	8本
6	丸マグネット	授業用	30個
7	ビデオカメラ	授業記録	1台
8	半紙	習字用	2袋
9	墨汁	習字用	3個
10	硯	習字用	20個
11	紙コップ	ティーパーティー用	36個
12	ホワイトボード用マーカー	授業用	4箱

(担当：陳)

## 2.2.6 会計

実習の運営のため、実習生及びコースに参加する学習者から教材費として1人500円ずつを徴収した。春季実習の残金として3882円があった。備品は公費で購入した。渉外・渉内の電話代、交通代、イベント代または、パーティーに使用した費用などの明細を以下の表に示す。

### 収支明細

収 入	金額(円)	支 出		金額(円)
昨年度及び春季実習の繰越金	3882	電話代	古賀	1140
学習者教材費(500円×15名)	7500		元	400
実習生(500円×9名)	4500		ディルルクシ	200
			サウェットアイヤラム	1000
			初	800
		<b>合計</b>	<b>3540</b>	
		チラシ・アンケート送付代(古賀)		240
		交通代	テイラー	1380
			古賀	1380
			魏	520
			元	980
			サウェットアイヤラム	1040
		<b>合計</b>	<b>5300</b>	
		イベン	魏	356

		ト代	元	698
			陳	398
			サウェットアイヤラム	4996
			初	300
		合計	6744	
合計	15882	合計	15824	
来年度残金(収入合計 - 支出合計) = 58 円				

(担当：ディルルクシ)

## 2.2.7 反省点

本年度教育実習における教室の確保、備品の管理・購入などの渉外内部の仕事について、以下の大きく3つの反省点が挙げられる。

- ・ 購入した書籍の管理の仕方が不十分であったため、本をその時点で誰が持っているのかが分からないということが実習期間中に何度も生じてしまった。
- ・ 習字用の筆が足りなかった。もっと購入するべきであった。
- ・ ティーパーティーに使う飲食代が多過ぎたため、食べ残したものが多かった。4千円程度で十分ではないかと思われた。

(担当：魏・陳・ディルルクシ)

## 2.3 文章作成

### 2.3.1 仕事の内容

文書作成係の仕事内容は、教育実習全体に関わる配布資料の作成を行うことである。

作成したのは以下の文書である。

- ・ 学習者募集用のチラシ
- ・ コースの詳細（英語版・日本語版）
- ・ 事前アンケートの調査票（英語版・日本語版）
- ・ 事前インタビューの原稿
- ・ 事前インタビューに使用する音読用の原稿
- ・ 地下鉄の路線図及び名古屋大学東山キャンパスの地図
- ・ 参加者へのメール

- ・オリエンテーションの配布資料
- ・インターネット公開のお知らせ

作成する文書が多く、文書作成係以外の実習生も多く関わっていた。各文書の内容は、教育実習生一同で話し合い、決定した。作成した文書をメーリングリストに流し、表現や内容に関する意見をもらい修正した。必要に応じて日本語を英語に翻訳し、日本語や英語のネイティブチェックをした。文書によっては、教育実習生一同で数回集まって修正箇所について話し合ったものもあった。

### 2.3.2 仕事の流れ

文書作成係の仕事の流れを述べる。

#### 【学習者募集用のチラシ】及び【コースの詳細（英語版・日本語版）】

5月21日までに作成し、外部渉外係に渡した。

#### 【事前アンケートの調査票（英語版・日本語版）】

文書作成係以外の実習生が作成した。先に日本語版を作成し、次に英語版に翻訳し、最後に日本語と英語のネイティブチェックをした。5月31日までに作成し、外部渉外係に渡した。実際に参加者に記入してもらったのは、英語版のみであった。

#### 【事前インタビューの原稿】及び【事前インタビューに使用する音読用の原稿】

文書作成係以外の実習生が全クラス共通のガイドラインを作成し、音読用の文章を用意した。その後、各クラスの係りがインタビューの原稿をレベルに合わせ、作成し直した。締切はインタビューを行った6月25日となった。

#### 【事前インタビューで配布する地下鉄の路線図及び名古屋大学東山キャンパスの地図】

文書作成係以外の実習生が用意した。締切はインタビューを行った6月25日となった。

#### 【参加者へのメール】

コースが始まる2週間前に作成した。文書作成係以外の実習生が地下鉄の路線図及び名古屋大学の東山キャンパスの地図を用意した。合わせて添付ファイルとして参加に送った。

### 【オリエンテーションの配布資料】

コースの初日までに作成した。

### 【インターネット公開のお知らせ】

研究レポートと報告書を個人が特定できない形でインターネットで公開することを説明し、公開に同意できない場合には連絡が欲しいという内容のメールを報告書の作成の際、参加者に送った。

## 2.3.3 反省点

反省すべき点が二つあると思われる。一つ目は、作成する文書が多く、他の実習生に作成してもらわざるを得なかったことにあるが、その中には、アンケートの調査票やインタビューの原稿があった。文書作成係の他に、「ニーズ調査係」がいれば、より早い段階から作成に取り組むことができたと思われる。二つ目は、承諾書を作成しなかったことである。問題は生じなかったが、ビデオ撮影や報告書などのインターネット公開に関しては、許可を取るべきではないかと思われる。

## 2.3.4 文書

ここでは、作成した文書を以下の順に載せる。

1. 学習者募集用のチラシ
2. コースの詳細（英語版）
3. コースの詳細（日本語版）
4. 事前アンケートの調査票（英語版）
5. 事前アンケートの調査票（日本語版）
6. 事前インタビューの原稿（全クラス共通のガイドライン）
7. 事前インタビューの原稿例（花クラス用）
8. 参加者へのメール
9. オリエンテーションの配布資料
10. インターネット公開のお知らせ

## 1. 学習者募集用のチラシ

# NAGOYA UNIVERSITY INTENSIVE JAPANESE PROGRAM 2007

## 2007 年度名古屋大学集中日本語コース

We are NOW ACCEPTING APPLICATIONS for our FIVE DAY SUMMER INTENSIVE JAPANESE COURSE  
5 日間の夏季集中日本語コースに参加される方を募集しております。

WHEN?

Monday July 30th to Friday August 3rd 2007 10am to 3pm  
2007 年 7 月 30 日 (月) ~ 8 月 3 日 (金) 午前 10 時 ~ 午後 3 時

WHERE?

Nagoya University Higashiyama Campus (On the Meijo Line)  
名古屋大学東山キャンパス 地下鉄名城線

WHO?

Anyone from beginners to advanced (Several levels will be available)  
入門から上級まで、どなたでも大歓迎です！いくつかのレベルを予定する予定です。

The course will be taught by students of the Graduate School of Languages and Cultures at Nagoya University as part of our Japanese language teaching practice course.

このコースでは名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻の大学院生が日本語教育実習の一環として日本語の指導をいたします。

Because we are still trainees, this course is **FREE!**

(Although we may ask for about 500 yen per person to cover teaching materials)

教師は実習生ですので、受講料は必要ありません。

(但し、教材費として 500 円程度の実費をいただくことがあるかもしれません。)

Please email Grace Cho at [nujapanese2007@yahoo.co.jp](mailto:nujapanese2007@yahoo.co.jp) if you are interested.

興味のある方は [nujapanese2007@yahoo.co.jp](mailto:nujapanese2007@yahoo.co.jp) (担当者 Grace Cho) までご連絡ください。

Application deadline **Monday June 4<sup>th</sup>**. Feel free to ask us any questions before you decide.  
We're looking forward to hearing from you.

締め切りは 6 月 4 日 (月) とさせていただきます。迷っていらっしゃる方もぜひ一度メールをお送りください。  
お返事をお待ちしております。

## 2 . コースの詳細 ( 英語版 ) 1 ページ目

NAGOYA UNIVERSITY INTENSIVE JAPANESE PROGRAM 2007

COURSE DETAILS

IF YOU HAVE ANY MORE QUESTIONS, FEEL FREE TO ASK US BY EMAIL

### **Q1. When and where is the course?**

The course will be held from 10am to 3pm on Monday July 30th to Friday August 3rd 2007  
The classrooms will be on the 6th floor of the Bunkei Sougoukan (文系総合館, Integrated Research Building (Arts and Humanities)), Nagoya University Higashiyama Campus.  
To get to the Bunkei Sougoukan, turn right out of exit 1 of Nagoya Daigaku station on the Meijo line. The Bunkei Sougoukan is on the left past the School of Economics.

### **Q2. What do I do if I want to participate?**

Please email Grace Cho at [nujapanese2007@yahoo.co.jp](mailto:nujapanese2007@yahoo.co.jp) by **MONDAY 4TH JUNE** letting us know your name and that you are interested in taking the course. We would appreciate an email even if you are still undecided, and of course if you have any questions we will be glad to answer them. In order to design a course to suit you, we will send a questionnaire to all potential participants to find out what you are interested in and what you want to learn.

### **Q3. What levels will be available?**

We are planning to teach several courses from elementary to advanced. In order to determine your level, we will ask you to participate in a ten minute interview either before or after your meeting on June 25th.

### **Q4. Who will teach the course?**

The course will be taught by students of the Graduate School of Languages and Cultures at Nagoya University as part of our Japanese language teaching practice course. As well as native Japanese speakers there will also be trainee teachers from China, Hong Kong, Taiwan, Sri Lanka, Thailand and England.

### **Q5. I'm worried that the class will be too difficult for me...**

Don't worry! We will use the information from your questionnaire and interview to design a course to suit your needs and to determine your level. We will also give you plenty of help and support (many of us have learnt Japanese as a second language so we know what it feels like!).

### **Q6. Will there be any special activities?**

Yes! We are planning an event for the final day.

## コースの詳細（英語版）2 ページ目

### **Q7. Do I have to pay for this course?**

You do not have to pay to attend this course, although we may ask you for about ¥500 yen to cover teaching materials. We are sorry for the inconvenience, but we cannot cover your transport expenses.

### **Q8. I am still not sure whether to participate.**

No problem! But we would appreciate it if you could email us and let you know that you are considering taking the course. Also feel free to ask us any further questions.

PLEASE EMAIL GRACE CHO AT [nujapanese2007@yahoo.co.jp](mailto:nujapanese2007@yahoo.co.jp) BY **MONDAY JUNE 4TH**

IF YOU ARE INTERESTED.

WE ARE LOOKING FORWARD TO HEARING FROM YOU.

### 3. コースの詳細（日本語版） 1 ページ目

名古屋大学集中日本語コース 2007

コース内容

もし内容についてご質問があれば、お気軽にお問い合わせください。

#### Q1. コースはいつ、どこで行われますか？

このコースは今年の7月30日（月曜日）から8月3日（金曜日）の毎日午前10時から午後3時まで名古屋大学文系総合館6階にて行われます。文系総合館へのアクセス方法ですが、地下鉄名城線の名古屋大学前の1番出口を出て、右に曲がって下さい。文系総合館は経済学部の西側にあります。

#### Q2. 参加したい場合はどうすればいいですか？

6月4日（月曜日）までに [nujapanese2007@yahoo.co.jp](mailto:nujapanese2007@yahoo.co.jp)（担当：Grace Cho）へ、このコースに興味があるということをメールでお送りください。皆様に合うコースをデザインするにあたり、皆様が興味を持っていることや学習したいことをお伺いするためのアンケートをご送付します。

#### Q3. どんなレベルの日本語クラスがありますか？

入門から上級レベルまで様々なレベルのクラスをご用意する予定です。なお、皆様のレベルを把握するために、10分程度のインタビューにご協力いただきたいと思います。インタビューは6月25日に行なう予定です。

#### Q4. 誰がこのコースで日本語を教えるのですか？

名古屋大学大学院国際言語文化研究科の大学院生です。日本、中国、香港、台湾、スリランカ、タイ及びイギリスの出身の教師（大学院生）がおり、外国人教師は日本語母語話者と同等のレベルの日本語力を有しています。

#### Q5. このクラスは私にとって難しすぎるのではないかと心配しているんですが...

心配しないで下さい。皆様からのアンケート及びインタビューの情報に基づいて、皆様のレベルやニーズを把握し、ご希望に合うコースをデザインします。コース開始後も可能な限りサポートさせていただきます。（日本語を第二言語として学習した経験のある教師が多数いますので、皆様の気持ちがよく理解できると思います！）

#### Q6. 他に特別なアクティビティーがありますか？

はい！コースの最終日にイベントを計画しております。

#### Q7. 有料ですか

受講料は必要ありません。ただ、教材費として500円程度の実費をいただく予定です。名古屋大学までの交通費は、申し訳ありませんが、各自ご負担くださいますようお願いいたします。

**Q8. 参加するかどうかまだ迷っているんですが...**

大丈夫です！ 私たちにメールをお送りいただき、このコースに興味があるということをお知らせください。コースに関するどんな質問でもお答えいたしますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

興味がある方は **6月4日（月曜日）** までに  
[nujapanese2007@yahoo.co.jp](mailto:nujapanese2007@yahoo.co.jp) (担当：GRACE CHO) までメールにてご連絡ください。  
皆様からのご連絡をお待ちしております。

4 . 事前アンケートの調査票（英語版）1 ページ目

# NAGOYA UNIVERSITY INTENSIVE JAPANESE PROGRAM 2007

## QUESTIONNAIRE

Thank you for your interest in the Nagoya University Intensive Japanese Program 2007.  
We would appreciate it if you would fill in this questionnaire and send it to us by email by

**MONDAY 11TH JUNE.**

We will use this questionnaire to help determine your Japanese level and to find out what you want to learn in order to design a course to suit your needs.

Thank you in advance for your cooperation.

Please indicate the responses that apply to you by copying this black square and pasting it over the white box .

This questionnaire has 7 pages.

You can answer this questionnaire in English or in Japanese.

### 1) About yourself

Name: \_\_\_\_\_

Nationality: \_\_\_\_\_

Age: \_\_\_\_\_

Sex:    Male                  Female

Mother tongue: \_\_\_\_\_

Organization:    JET Programme                  ALTIA CENTRAL

### 2) How long have you lived in Japan? \_\_\_\_\_ year(s) \_\_\_\_\_ month(s)

Please go on to the next page...

3) About your experience of learning Japanese

Have you ever studied Japanese before?

No

Yes →A. Where? : At School • University in my home country

At School • University in Japan

At work

At a Japanese language school

By myself

Others

→B. How long? : Year \_\_\_\_\_ ~ Year \_\_\_\_\_ ( about \_\_\_\_\_ hour(s) per week )

Year \_\_\_\_\_ ~ Year \_\_\_\_\_ ( about \_\_\_\_\_ hour(s) per week )

Year \_\_\_\_\_ ~ Year \_\_\_\_\_ ( about \_\_\_\_\_ hour(s) per week )

Total: \_\_\_\_\_ years ( about \_\_\_\_\_ hours )

Example : Year 2000 ~ Year 2001 ( about 5 hour(s) per week )

Year 2002 ~ Year 2005 ( about 1 hour(s) per week )

Total : 5 years ( about 432 hours )

C. The textbook(s) you used:

『Minna no Nihongo』 Lessons \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_

『Minna no Nihongo』 Lessons \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_

Others: \_\_\_\_\_, Lessons \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_

→D. Have you taken the Japanese Proficiency Test before?

No → I am planning to take level \_\_\_\_\_ (if applicable)

Yes → Please enter the year and result

Level 1 (Year: \_\_\_\_\_ Pass/Fail)

Level 2 (Year: \_\_\_\_\_ Pass/Fail)

Level 3 (Year: \_\_\_\_\_ Pass/Fail)

Level 4 (Year: \_\_\_\_\_ Pass/Fail)

4) What is/are your aim(s) of studying Japanese? ( You can check more than one box. )

Need it for my daily life

To use in my present work

To study in higher education

I am interested in Japanese language

I am interested in Japanese cultures, societies, etc

For obtaining qualification(s)

Others: \_\_\_\_\_

Please go on to the next page...

5) How often do you use Japanese in your daily life or your work?

- A. I use Japanese every day  
 B. I sometimes use Japanese  
 C. I seldom use Japanese  
 D. I never use Japanese

6) Have you ever experienced any difficulties in using Japanese for communication? If yes, please give us some details.

7) About your Japanese level

A. About Hiragana:

- e-1 How many can you read? → All      Some      None  
 e-2 How many can you write? → All      Some      None

B. About Katakana:

- f-1 How many can you read? → All      Some      None  
 f-2 How many can you write? → All      Some      None

C. About Kanji:

- |                             |   |           |            |            |
|-----------------------------|---|-----------|------------|------------|
| g-1 How many can you read?  | → | None      | 1 ~ 100    | 100 ~ 300  |
|                             |   | 300 ~ 500 | 500 ~ 1000 | Above 1000 |
| g-2 How many can you write? | → | None      | 1 ~ 100    | 100 ~ 300  |
|                             |   | 300 ~ 500 | 500 ~ 1000 | Above 1000 |

Please go on to the next page...

8) Please choose from the following (No.1-5), regarding your Japanese proficiency.

1 : Very easy	2 : Easy	3 : Difficult
4 : Very difficult	5 : I don't know because I have no experience of it	

A. LISTENING to Japanese

I can understand the announcements on public transport such as the subway, buses, etc.

→ 1 2 3 4 5

I can understand numbers, prices and times.

→ 1 2 3 4 5

I can understand the news on TV.

→ 1 2 3 4 5

I can understand conversations about work with my colleagues.

→ 1 2 3 4 5

I can understand the contents of meetings at the workplace.

→ 1 2 3 4 5

I can understand the announcements in department stores or in public areas.

→ 1 2 3 4 5

I can understand casual conversations with friends.

→ 1 2 3 4 5

B. READING Japanese

Regarding the details of newspaper or magazine:

-1 I can understand the information (address, age, etc) about the person involved.

→ 1 2 3 4 5

-2 I can understand the contents of the article.

→ 1 2 3 4 5

Regarding information about public events such as concerts, movies, etc, from schedules or posters:

-1 I can understand the venue and time.

→ 1 2 3 4 5

2 I can understand the event details.

→ 1 2 3 4 5

I can understand the items written in Japanese (e.g. re-entry permit, hotel bills, application forms) in order to fill in my personal information (e.g. name, birthday, address, etc)

→ 1 2 3 4 5

I can understand signs, notices and instructions found in daily life.

→ 1 2 3 4 5

I can understand messages and e-mails written by my friends or colleagues.

→ 1 2 3 4 5

Please go on to the next page...

8 continued) Please choose from the following (No.1-5), regarding your Japanese proficiency.

1 : Very easy	2 : Easy	3 : Difficult
4 : Very difficult	5 : I don't know because I have no experience of it	

C. SPEAKING Japanese

- |  |   |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|---|
| I can introduce myself to others.  | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can talk about a topic that interests me or about something that happened to me. | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can ask directions.  | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can use in Japanese in formal settings, such as meetings, presentations etc.     | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can make daily conversation in plain form (e.g. with friends).                   | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can make daily conversation in polite form (e.g. with colleagues).               | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can talk about work with my colleagues.  | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

D. WRITING Japanese

- |  |   |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|---|
| I can fill in forms / documents.                       | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can write E-mails to my colleagues.                  | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can write reports for my job / study.                | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can write diaries, blogs, etc.                       | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| I can write E-mails to my friends with a mobile phone. | → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Please go on to the next page...

9) About your requests:

Please choose from 4 (very necessary) to 1 (not necessary at all) regarding the following items.

(Not necessary at all) 1 > 2 > 3 > 4 (Very necessary)

→A. Speaking Japanese

B. Listening to Japanese

C. Reading Japanese

D. Writing Japanese

E. Increasing knowledge of Japanese culture

What are the skills and abilities that you are aiming at in this program? (Please choose as many as you like)

- Speaking: a. Enough for greetings  
b. Enough for daily life (e.g. do shopping on my own, ask shop assistants questions, etc.)  
c. To be able to communicate with my friends  
d. To be able to use Japanese in my job
- Listening: a. Enough for daily life (e.g. to be able to understand the Japanese of shop assistants and/or receptionists in a hospital, etc.)  
b. To be able to understand the Japanese of my Japanese friends  
c. To be able to understand the Japanese at work  
d. To be able to understand the Japanese on TV
- Reading: a. To be able to read signs, billboards  
b. Enough for daily life (e.g. to be able to read leaflets, posters, notice boards, etc.)  
c. To be able to read mails, messages at work  
d. To be able to read magazines, novels, etc
- Writing: a. To be able to fill in my name and address in documents  
b. To be able to write mails, messages to my friends  
c. To be able to write diaries in Japanese

Besides above, please let us know of anything else that you would like to learn.

( Example: grammar, vocabulary, expressions, conversation in public settings, listening, writing E-mails, Kanji, etc. )

Please let us know if there is anything you would like to experience during your stay in Japan.

( Example: calligraphy, flower arrangement, tea ceremony, etc. )

事前アンケートの調査票（英語版）7ページ目

**10) Please choose a time zone for your interview on Monday 25th June. Your interview will last approximately 10 minutes. We will confirm your time by email. If you are unable to make either of these time zones please contact us by email.**

**13 : 00 ~ 15 : 00**

**15 : 30 ~ 18 : 00**

Thank you for your cooperation.  
Please return the completed questionnaire to us by email by

**MONDAY 11TH JUNE.**

## 2007 年度名古屋大学集中日本語コース アンケート

2007 年度名古屋大学集中日本語コースに興味を持って下さいまして、ありがとうございます。  
お手数をおかけいたしますが、このアンケートに答えていただき、6月11日(月)までに、メールに添付  
してお送りください。

私たちはアンケートの結果を元に、あなたの日本語能力を判断すると共に、あなたがこのコースでどんな  
ことを学びたいのかを把握し、一人一人の希望に合うコースをデザインしていきたいと考えています。  
ご協力、よろしくお願い致します。

以下の質問のうち、下線( )の部分には、直接答えを書き込んでください。また、複数の  
の中から答えを選ぶ場合は、 をコピーし、該当する の上にペーストしてください。  
このアンケートは、全部で7ページあります。  
日本語で答えてくださっても、英語で答えてくださっても結構です。

1) あなたについて

なまえ： \_\_\_\_\_

国籍： \_\_\_\_\_

年齢： \_\_\_\_\_ さい

性別： 男性      女性

母語： \_\_\_\_\_ 語

所属先： JET プログラム      アルティアセントラル

2) 日本にはどのくらい住んでいますか? \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ ヶ月間

次のページへ進んでください...

3) あなたの日本語学習歴について

日本語を勉強したことがありますか？

いいえ

はい A.どこで： 母国の学校・大学  
日本の学校・大学  
会社  
日本語専門学校  
自分で  
その他

B.どのくらいの期間： \_\_\_\_\_年 ~ \_\_\_\_\_年まで（週に約 \_\_\_\_\_時間）  
\_\_\_\_\_年 ~ \_\_\_\_\_年まで（週に約 \_\_\_\_\_時間）  
\_\_\_\_\_年 ~ \_\_\_\_\_年まで（週に約 \_\_\_\_\_時間）  
合計： \_\_\_\_\_年間（約 \_\_\_\_\_時間）

例：2000年 ~ 2001年まで（週に約 5時間）  
2002年 ~ 2005年まで（週に約 192時間）  
合計：5年間（約 432時間）

C.これまで使用した日本語教科書：

『みんなの日本語』 \_\_\_\_\_課まで

『みんなの日本語』 \_\_\_\_\_課まで

その他： \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_課まで

D.日本語能力試験を受けたことがありますか？

いいえ 今後受験の予定の級（もしあれば）： \_\_\_\_\_

はい 受けたレベルとその年・結果を記入してください。

1級（\_\_\_\_年、合格・不合格）      2級（\_\_\_\_年、合格・不合格）

3級（\_\_\_\_年、合格・不合格）      4級（\_\_\_\_年、合格・不合格）

4)日本語を勉強する目的は何ですか？（複数回答可）

日常生活に必要

現在の仕事に必要

進学に必要

日本語に興味があるから

日本文化・社会などに興味があるから

資格のため

その他： \_\_\_\_\_

5) あなたは、毎日の生活や仕事の中でどのくらいの頻度で日本語を使いますか？

- A.ほとんど毎日使う
- B.ときどき使う
- C.ほとんど使わない
- D.全く使わない

6) 日本語でのコミュニケーションで困ったことはありますか。もしあれば記入してください。

7) あなたの日本語のレベルについて

A. 「ひらがな」について

- |                 |       |       |        |
|-----------------|-------|-------|--------|
| e-1 どのくらい読めますか？ | 全部読める | 少し読める | 全然読めない |
| e-2 どのくらい書けますか？ | 全部書ける | 少し書ける | 全然書けない |

B. 「カタカナ」について

- |                 |       |       |        |
|-----------------|-------|-------|--------|
| f-1 どのくらい読めますか？ | 全部読める | 少し読める | 全然読めない |
| f-2 どのくらい書けますか？ | 全部書ける | 少し書ける | 全然書けない |

C. 「漢字」について

- |                 |          |           |          |
|-----------------|----------|-----------|----------|
| g-1 どのくらい読めますか？ | 全然読めない   | 1字～100字   | 100～300字 |
|                 | 300～500字 | 500～1000字 | 1000字以上  |
| g-2 どのくらい書けますか？ | 全然書けない   | 1字～100字   | 100～300字 |
|                 | 300～500字 | 500～1000字 | 1000字以上  |

次のページへ進んでください...

8) あなたの日本語能力について次の1から5までの中から番号を選んでください。

1: 簡単にできる	2: 普通にできる	3: あまりできない
4: たいへん難しい	5: 経験したことがないので、分からない	

A. 聞くこと

地下鉄、バスなどの乗り物でのアナウンスが理解できます。	1	2	3	4	5
数、値段、時間が理解できます。	1	2	3	4	5
テレビニュースを聞いて理解できます。	1	2	3	4	5
職場で同僚との仕事の会話が理解できます。	1	2	3	4	5
職場での会議の内容が理解できます。	1	2	3	4	5
デパートまたは公共の場所のアナウンスが理解できます。	1	2	3	4	5
友達との雑談が理解できます。	1	2	3	4	5

B. 読むこと

新聞・雑誌の内容について

-1 記事の中で取り上げられている人の情報（住んでいる所・年齢など）が理解できます。	1	2	3	4	5
-2 話の内容が理解できます。	1	2	3	4	5

公共行事の日程表やポスターから、コンサートや映画などのイベント情報について

-1 その場所や時間が確認できます	1	2	3	4	5
-1 イベントの詳細が理解できます。	1	2	3	4	5

自分自身の情報（名前、生年月日、住所...）を記入するために、日本語で書かれた質問事項（再入国許可書、ホテル宿帳、  
への申し込み書）が理解できます。

	1	2	3	4	5
日常よく見かける標識・掲示板・指示などが理解できます。	1	2	3	4	5
友達や同僚が書くメッセージ・E-mail が理解できます。	1	2	3	4	5

次のページへ進んでください...

8（続き）あなたの日本語能力について次の1から5までの中から番号を選んでください。

1：簡単にできる	2：普通にできる	3：あまりできない
4：たいへん難しい	5：経験したことがないので、分からない	

C.話すこと

自己紹介ができます。	1	2	3	4	5
自分が興味を持っている話題や自分にあった出来事について話すことができます。	1	2	3	4	5
道を尋ねることができます。	1	2	3	4	5
発表や会議などのフォーマルな場で、日本語を使うことができます。	1	2	3	4	5
普通体で日常会話ができます。（友達などと）	1	2	3	4	5
丁寧体で日常会話ができます。（同僚などと）	1	2	3	4	5
職場の人と仕事に関する会話ができます。	1	2	3	4	5

D.書くこと

書類に記入することができます。	1	2	3	4	5
同僚に E-mail を書くことができます。	1	2	3	4	5
仕事または勉強のレポートを書くことができます。	1	2	3	4	5
日記・Blog を書くことができます。	1	2	3	4	5
友達に携帯メールを書くことができます。	1	2	3	4	5

次のページへ進んでください...

9) あなたの要望について

次の事項についてあなたにとってとても必要なもの4から全く必要ではないもの1までの中から番号を選んでください。

(全く必要ではない) 1 > 2 > 3 > 4 (とても必要)

- A.日本語を話すこと
- B.日本語を聞くこと
- C.日本語を読むこと
- D.日本語を書くこと
- E.日本文化についての知識を増やすこと

このプログラムで目指すスキルと能力はどれですか？（複数選択可）

- 話す：a. あいさつできる程度  
b. 日常生活できる程度（一人で買い物、店員さんに質問する...）  
c. 友だちとコミュニケーションできる程度  
d. 仕事で日本語を使える程度
- 聞く：a. 日常生活できる程度（店員さんの話分かる、病院の受付の話分かる...）  
b. 日本人の友人の話分かる程度  
c. 仕事での日本語分かる程度  
d. テレビの日本語分かる程度
- 読む：a. 標識・看板が読める程度  
b. 日常生活できる程度（チラシが読める、ポスターの内容、掲示板の内容...）  
c. 仕事のメール・メッセージが読める程度  
d. 雑誌・小説...などの本が読める程度
- 書く：a. 自分の名前や住所などを書類に記入できる程度  
b. 友達にメール・メッセージが書ける程度  
c. 日本語で日記が書ける程度

上の 以外で勉強したいものがあれば、具体的に書いてください。

(例：文法、語彙、表現、公的な場面での会話、聞き取り、E-mailの書き方、漢字 など)

これから日本で何か体験してみたいことがありますか？あれば書いてください。

(例：習字、生け花、お茶 など)

事前アンケートの調査票（日本語版）7 ページ目

10) 6月25日(月)のインタビューの希望時間

インタビューは 10 分程度を予定しております。詳しい時間帯はメールでお知らせします。どうしても都合が  
付かない方はメールでご連絡ください。

13 : 00 ~ 15 : 00

15 : 30 ~ 18 : 00

ご協力、ありがとうございました。

6月11日(月)までに、このアンケートをメールに添付してお送りください。

よろしく願い致します。

6. 事前インタビューの原稿（全クラス共通のガイドライン）

2007年夏季実習インタビューのガイドライン

A 話す

名前 国籍 いつ来日したか 勤務先の学校はどこか 名古屋大学まで交通は便利か・所要時間はどのぐらいかかるか
連絡には電話がいいか（よい場合は電話番号を聞いておく）・パソコンメールがいいか パソコンのシステムは日本語のバージョンなら、読めるか メールチェックの頻度はどのぐらいか（よくチェックするかたまたまするか）
授業や学校で日本語を使うことはあるのか 日常生活で日本語を使うのか フォーマルな日本語かインフォーマルな日本語を使うのか、どこで、だれと使うのか 日本語で何を書く／読むのか 日本語が話せなくて困っていることはあるのか
日本で体験したこと・これから日本で体験してみたいものはあるのか コース日程の確認 コースの要望・リクエストに質問したいことがあるのか （パソコンのメール・ディスカッション・発音等）

B 読む（各クラスのレベルに合ったもの）

7. 事前インタビューの原稿例（花クラス用）1 ページ目

2007 年度日本語教育実習（夏季） 集中日本語コース

インタビュー（上級用）

こんにちは、私は です。

（こんにちは。 と言います。よろしくお願いします。）

これから、インタビューをさせていただきます。

このインタビューは、日本語のコースのクラス分けの参考にさせていただきます。

インタビューの内容を録音させていただいてもよろしいですか？

それでは、これからいくつか質問をしますので、教えてください。

まずは、お名前を、フルネームで教えていただけませんか？

お国はどちらですか？

日本は、いつからですか？

今、勤めている学校はどちらですか？（その学校はどちらにありますか？）

日本語は、日本に来る前に勉強しましたか？

（大学では、日本語の専攻でしたか？）（どこで勉強しましたか？）

（今、日本語を勉強するために学校へ通っていますか？）

日本語と母語以外に、話せる外国語はありますか？

職場で日本語はどれくらい使いますか？

フォーマルな日本語とインフォーマルな日本語を切り替えられますか？

（よく使うのはどちらですか？）

日本語で文章を書いたり、文章を読んだりすることはどれくらいありますか？

書ける・読めるようになりたいですか？

日本語がもっとできるようになりたいと思うのは、どんなときですか？

文章の読解（誤用訂正やアドバイスは無し。全く助けは無しに読んでもらう。）

次は音読です。これは交通事故についての文章です。

この文章を読み上げてください。

先に目を通していただいてもかまいません。よかったらこのイラストを参考にしてください。

## 事前インタビューの原稿例（花クラス用）2 ページ目

読み上げていただいた後に内容について質問します。

ふりがなが付いている文章も用意しましたが、まずは漢字の読み方に挑戦してください。

読めない漢字があっても、飛ばして最後まで読んでください。

### 音読

ありがとうございます。それでは、質問します。

「サンキュー事故」とは、どういう事故ですか？

+ 日本で車を運転しますか？日本での運転はどうですか？ etc

次は夏の集中日本語コースについてですが、このコースを通して、どんなことを身に付けたいと思いますか？（このコースで特に勉強したいことはどんなことですか？）

授業は朝10時～午後3時までですけれども、その他に予習する時間は取れますか？どれくらい取れますか？

過去にこのコースに参加したことがありますか？

ある...では、名古屋大学への行き方は分かりますよね？（確認）

ない...名古屋大学への行き方は分かりますか？（確認+地図の説明）

何か緊急なお知らせがあるときは、電話をしたいと思います。電話番号を教えてもらっていいですか？

## 8 . 参加者へのメール 1 ページ目

Important information about the Nagoya University Intensive Japanese Program.

(Romaji text and English text follow)

なごやだいがくしゅうちゅうにほんご <sup>さんか</sup> みな <sup>みな</sup>  
名古屋大学 集 中 日本語コースに参加される皆さんへ、

こんにちは。

しゅうちゅうにほんご <sup>のこ</sup> わず <sup>さんか</sup> <sup>こころ</sup> れい <sup>もう</sup>  
集 中 日本語コースまで、残り僅かになりましたね。参加して下さることに心からお礼を申し

あ  
上げます。

Nagoya Daigaku Shuuchuu Nihongo koosu ni sanku sareru minasan e,

Konnichiwa.

Shuuchuu Nihongo koosu made, nokori wazuka ni narimashita ne. Sanka shite kudasaru koto ni kokoro kara orei o mooshiagemasu.

Dear everyone who is going to take part in the Nagoya University Intensive Japanese Program,  
It's not long now till the program starts, so we thought we'd send you a short message to say thank you for deciding to take part.

アンケートとインタビューのご <sup>きょうりよく</sup> をありがとうございました。おかげで4クラスを <sup>せってい</sup>  
設定すること

ができました。授業は 4 つのレベルごとに行いますが、 <sup>ぜんいん</sup>  
全員参加のオリエンテーションとパーティーも

よてい  
予定しております。

Ankeeto to intabyuu no gokyooroyoku o arigatoo gozaimashita. Okagede yon kurasu o settei suru koto ga dekimashita. Jugyoo wa yotstu no reberu goto ni okonaimasu ga, zen'in sanku no orienteeshon to paatii o yotei shite orimasu.

We are grateful for the time and effort you put into the questionnaire and interview. Thanks to your help we have been able to set 4 different levels of class. We're also planning an orientation session and a party for everyone to take part.

じゅぎょう <sup>がつ</sup> にち <sup>げつ</sup> <sup>がつみつか</sup> きん <sup>いつかかん</sup>  
授業は 7月30日(月)から 8月3日(金)までの5日間です。短い間ですが、楽しく勉強しま

しょう。 <sup>じゅぎょう</sup> <sup>あさ</sup> <sup>じ</sup> <sup>はじ</sup> <sup>しよ</sup> <sup>にち</sup> <sup>おこな</sup> <sup>う</sup> <sup>ので</sup> <sup>じ</sup> <sup>ぶん</sup> <sup>ごろ</sup>  
しょう。授業は朝10時に始まります。初日はオリエンテーションを行うので、9時50分頃にお

## 参加者へのメール 2 ページ目

あつ 集まりいただけたら さいわい 幸いです。きょうしつ ぶんけいそうごうかん かい 教室は文系総合館の6階の609号です。

Jugyoo wa shichigatsu sanjuunichi (getsu) kara hachigatsu mikka (kin) made no itsukakan desu. Mijikai aida desu ga, tanoshiku benkyoo shimashoo. Jugyoo wa asa juu ji ni hajimarimasu. Shonichi wa orienteeshon o okonau node, ku ji gojuppun goro ni oatsumari itadaketara saiwai desu. Kyooshitsu wa Bunkei Soogookan no rokkai no roku maru kyuu goo desu.

The course will run from Monday 30th July to Friday 3rd August. We hope it will be an enjoyable five days. Classes start at 10 am. On the first day there will be an orientation class, so we would appreciate it if you could plan to arrive a few minutes early, at around 9:50. The classroom is room 609 on the 6th floor of the Integrated Research Building (Arts and Humanities).

ぶんけいそうごうかん なごやだいがくひがしやま 文系総合館は名古屋大学 東山 キャンパスにあります。もよろ ちかてつめいじょうせん 最寄りの駅は、地下鉄名城線の

なごやだいがくえき 名古屋大学 駅です。ばんでぐち 1番出口をご利用ください。

ちかてつ るせんず 地下鉄の路線図とキャンパスのちず 地図を添付いたします。ひつよう 必要な方はご覧ください。

Bunkei Soogookan wa Nagoya Daigaku Higashiyama Kyampasu ni arimasu. Moyori no eki wa, chikatetsu Meijoo sen no Nagoya Daigaku Eki desu. Ichiban deguchi o goriyoo kudasai. Chikatetsu no rosenzu to kyampasu no chizu o tempu itashimasu. Hitsuyoona kata wa goran kudasai.

The Integrated Research Building (Arts and Humanities) is on the Higashiyama Campus of Nagoya University. The nearest station is the Nagoya University Station on the Meijo line. Please use exit number 1. We will attach a map of the subway system and a map of the Higashiyama Campus for those of you that need it.

みな 皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

Minasan ni oai dekiru koto o tanoshimi ni shite orimasu.

We're looking forward to meeting you.

ピン、グレイス、ちん 陳、ディルルクシ、こが 古賀、げん 元、ぎ のだ 魏、野田、ベッキーより

From Pin, Grace, Chin, Dilrukshi, Koga, Gen, Gi, Noda, Becky

9. オリエンテーションの配布資料

2007年度名古屋大学集中日本語コース

NAGOYA UNIVERSITY INTENSIVE JAPANESE PROGRAM 2007

授業は4つのクラスごとに 行 います There are four classes

教室は以下の通りです The classrooms are as follows

花クラス：612号、とりクラス：609号、風クラス：610号/611号、つきクラス：623号/624号

Hana-class: room 612, Tori-class: room 609, Kaze-class: rooms 610/611, Tsuki-class: rooms 623/624

金曜日の2時から609教室にてイベントがあります。写真を一枚持ってきてください There will be an event in room 609 from 2pm on

Friday. Please bring a photo.

恐れ入りますが、各自500円の運営費(電話代、イベント代など)を集めさせていただきます。担当教師にお渡しください We will collect

500 yen per participant to go towards running costs (telephone bills, the event etc). Your teacher will collect this during the class

昼休みは12時~1時までです。 Lunch is from 12 to 1

昼食は6階のリフレッシュコーナーにてどうぞお召し上がりください Feel free to eat your lunch in the common area on the 6th floor

キャンパス内には、食堂やお弁当・パンなどが購入できるお店があります。案内図を参考にしてください There are several places

to buy or eat your lunch on campus. Please refer to the map below

教室を離れる際には、貴重品をお持ちください Please take your valuables with you when you leave the classroom

東山キャンパス

Higashiyama Campus

文系総合館

Integrated Research Building  
(Arts and Humanities)

コンビニ

Convenience Store

pranzo

Pranzo (Shop)

30・31日のみ

30th/31st July only

パンだが屋 (30・31日のみ)

Pandagaya (Shop) 30th/31st July only

文系総合館6階

Integrated Research Building (Arts and Humanities) 6th floor

		リフレッシュ コーナー Common Area	623
	624		
612		609	
611			
610			

フレンドリー南館(食堂)

Friendly Nambu (cafeteria)

南館食堂

Nambu Cafeteria

南館購買店

Nambu Koobaiten (Shop)

## 10 . インターネット公開のお知らせ

Dear everyone who took part in the Nagoya University Intensive Japanese Program last summer,

Hello again! This is Becky from Nagoya University Graduate School of Languages and Cultures.

We are currently in the process of writing a report on the course last summer, which includes the content and goals of each class, to what extent the goals were achieved and the results from your questionnaires. It will not include any personal names or photographs.

Every year this report is put on the Nagoya University website at:  
<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/menu5.html>

If you have any objection to this report being put on the internet, please let us know.

Thank you in advance for your consideration.

Best regards,

Becky Taylor

(担当：テイラー・サウェットアイヤラム)

### 2 . 4 報告書・web

今年度も例年通り実習生の多くは博士前期課程の2年生であり、実習終了(2007年8月)後は翌年(2008年)の1月頃まで修士論文の執筆に専念することとなった。そのため、報告書の作成が実質的にスタートしたのは修士論文提出直後(1月中旬)であった。

まず、2008年1月15日に実習生が集まり、報告書作成の方向性について検討した。この際、報告書担当(本節の筆者)は予め報告書の章立て、執筆の配分(具体的な執筆の役割分担は実習生で話し合っ  
て決定した)、報告書の書式などについて仮の案を提示し、概ねこの案に基づいて報告書を作成することとなった。なお、報告書は3部作成することとなった。1部は本報告書、1部は春季実習(2007年2

月実施)の報告書、もう1部は係ごとの来年度以降の実習生に向けた引き継ぎ事項(報告書に掲載するほどではないが、実習生にとって有益であると思われる情報)をまとめた報告書である。

実習生それぞれ、執筆した担当項目の word ファイルをメールに添付して2月22日までに報告書担当に送付するという締め切りを設定し、3月上旬頃までには全ての文書が揃った。(なお、各役割ごとの執筆項目や各クラスの執筆項目については、各役割や各クラスの代表者がまとめて1つのファイルにした上でメール添付にて送付することとした。)

その後、報告書担当は集まった文書のネイティブチェックや推敲を行い、印刷して実習担当の鷺見幸美先生に最終チェックをしていただいた上で、報告書の最終版を完成させた。

今年度は報告書担当が web 担当も兼任した。そのため、本節の筆者は、例年通り実習に関する文書を PDF ファイル化し、これを掲載した web ページをホームページビルダーで作成し、このページを名古屋大学大学院日本語文化専攻の杉村泰先生に専攻のホームページにアップしていただいた。ホームページに掲載している文書は、「夏季実習報告書」「春季実習報告書」「研究レポート」及び、鷺見幸美先生に執筆していただいた「実習によせて」「実習生に向けて」である。(詳細は、<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/menu5.html> の「2007年度日本語教育実習報告」を参照されたい。)

なお、本実習では、Yahoo!グループを開設し、メーリングリストを通じて実習生同士(及び鷺見先生と)の意見交換を密に行い、常に全員が情報を共有できるようにした。また、2007年4月より、毎週「日本語教授法及び実習」の授業後に実習生が集まって実習実施に向けたミーティングを行ったが、その議事録を毎回報告書・web担当がメーリングリストで配信するようにした。これは、2つの目的に基づいている。1つは、全員が常に準備の進捗状況を正確に把握することである。もう1つは、実習終了後から実質的な報告書作成開始までに半年程度の期間が空いてしまうため、報告書作成の際に準備の状況を振り返ることができるようにするためである。(Yahoo!グループでは、配信したメーリングリストがグループのホームページ上に自動的に残り、参照が可能である。なお、個人情報も多くふくまれるため、現在一般公開はしていない。)

(担当：野田)

## 第3章 クラス概要

### 3.1 花クラス

#### 3.1.1 学習者について

学習者のプロフィールを以下の表に示す。

##### 【学習者のプロフィール】

出身地	性別	年齢	学習歴 (独学を含む)	日本滞在期間
イギリス、オーストラリア、カナダ 各1名	男	20代～ 30代	6～8年	2～7年

日本語のレベルに関しては、日本語能力試験1級に合格している学習者と2級に合格している学習者がそれぞれ1名、2級を目指し勉強している学習者が1名いるので、読解能力には、かなりばらつきがある。また、口頭能力にもばらつきが見られたが、読解能力が比較的低い学習者はその分口頭能力で補っており、口頭能力が比較的低い学習者は読解能力で補っていた。3名とも日本国内の中学校や高等学校で英語教師として勤めており、丁寧体より普通体を使用する頻度が高く、普通体での日常会話であれば流暢に話せるが、丁寧語や高度なディスカッションでは多少流暢さに欠ける。

#### 3.1.2 コース概要

はじめに、花クラスにおける学習目標とルールについて述べる。

3.1.1でも提示したように、花クラスの3名の学習者はそれぞれ日本語の能力にもばらつきがあり、コースに対するニーズも必ずしも共通しているものではなかったが、事前のアンケートやインタビューを踏まえ、3名に共通する要素を抽出し、以下の5つの学習目標を設定した。この学習目標は初日の授業で学習者にも提示した。また、この学習目標の達成を常に考慮して、具体的な教案を作成していった。

##### <花クラスの学習目標>

- (1)読解について：よりスムーズに読めるようになること。
- (2)話題について：読める・話せる話題を広げること。

- (3)丁寧語について：丁寧語をより自然に使えるようになること。
- (4)発音について：日本語らしいイントネーションで話せるようになること。
- (5)文法について：難しい文法を使えるようになること。

なお、テイラーの授業でも野田の授業でも(1)から(5)の全ての要素を考慮に入れた展開をしたが、特に野田は(1)と(2)の達成に、テイラーは(3)から(5)の達成により重点を置いた教案作成をし、授業を行った。

また、学習目標とは別に、花クラスにおける授業中のルールとして以下の5点を設定し、この5点を書いた紙をコース全期間を通してホワイトボードに掲示し、学習者に意識させた。

#### <花クラスでのルール>

- 常に丁寧語で話すようにしましょう。
- お互いのことを名字で呼び合ひましょう。
- 英語を使わないようにしましょう。
- 分からない言葉があるときは、簡単な日本語で説明してみましょう。
- 積極的に発言しましょう。

このうち、や に関しては、学習者は3名とも、日常的に砕けた表現での日本語会話は難なく行えるものの、改まった場面での日本語の使用に難しさを感じており、かつできるようになりたいと考えていたために、この能力をコース期間中に少しでも高めることを踏まえて提示したものである。(教室活動において意識的にフォーマルな場面を設定するため。)なお、授業中に学習者に ~ を意識化させ、かつ、授業の流れを止め過ぎずにこの3つのルールの違反を指摘するため、机の真ん中にマグカップとスプーンを置き、3つのルールに違反した学習者がいた場合にはティーチングアシスタント(授業を担当していない方の教師)が無言でスプーンでマグカップを叩いて音を鳴らし、学習者に自主的に違反に気付かせ、修正させる、という試みを行った。

次に、花クラスの時間割を以下に提示する。各授業の詳細は3.1.3節を参照されたい。なお、授業は2007年7月30日(月)から8月3日(金)まで、1日に4時間ずつ行った。1時間目は10時から11時、2時間目は11時から12時、3時間目は13時から14時、4時間目は14時から15時である。(なお、以下の表におけるTはテイラー担当の授業、Nは野田担当の授業である。また、全ての授業で読解教材を使用することとしたが、授業で使用した読解教材のテーマは表の中では<>で括って示してある。)

	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目
月	オリエンテーション	T・N	N	T

	(全クラス合同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花クラスオリエンテーション：20分（学習目標・ルールの説明）</li> <li>・ゲーム：40分（様々な話題について話して、反応する。話題ボックスと名前ボックスを使う。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解イントロ</li> <li>・話し合い（いつもの読解の仕方について・辞書の使用について・ニーズについて・目標について）</li> <li>・読解＜日本人の食生活について＞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧語イントロ（＜新入社員のあきれた言動＞）</li> <li>・話し合い（丁寧語の使用について、日常における使用状況・得意か不得意か・目標など）</li> <li>・カードを選ぶ丁寧語ゲーム</li> </ul>
火	N	T	N	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解＜喜怒哀楽＞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声イントロ(アクセント)＜名前の人気ランキング＞</li> <li>・話し合い(アクセントに関して、知識・ニーズ・目標など)</li> <li>・日本人の氏名のアクセントについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解：新聞を読む その</li> <li>・日本の新聞の特徴について概説。</li> <li>・当日の新聞朝刊3紙(朝日・読売・毎日)を学習者に分担して読んでもらい、特徴を知る。</li> <li>・実際に新聞の記事を読む。＜TOYOTAのプラグイン自動車の開発について＞</li> </ul>	
水	T	N	T	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法イントロ＜もし世界が100人の村だったら＞</li> <li>・文法(使役受身)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解＜日本の雑誌(流行について) - 日経トレンドイ 2007年8月号 - &gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～市」「～県」のアクセント</li> <li>・丁寧語：「～んですけど」「～んですよ」など</li> <li>・＜環境問題＞ 読み物の内容を発表する・環境問題についてのディスカッション</li> </ul>	
木	N	T	N	T
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解＜外国人児童の不就学について＞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセントルールの復習(～市、～県、～人、～語、～子、～美など)</li> <li>・相手に質問する際の丁寧語使用</li> <li>・＜外国人の不就学＞に関するディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解：新聞を読む その</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業で読んできた読解教材のまとめ(翌日のディスカッションの準備)</li> </ul>
金	N・T		N・T	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> </ul> <p>日本人ゲスト3名を招き、ここまでの授業で学んだ様々なトピックに関する「日本人に聞いてみたいこと」</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い</li> <li>・ディスカッションの感想</li> </ul>	ティーパーティー(全クラス合同)

<p>(前日の授業で学習者が話し合っけて挙げたもの)をテーマに、実際に日本人との日本語によるコミュニケーションを体験してもらう。</p>	<p>・目標の達成度の確認 ・今後の日本語学習の目標について</p>	
--	--	--

### 3.1.3 授業報告

<p><b>実習日：7月30日(月)2時間目</b></p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：花クラスのオリエンテーション</b></p>	<p><b>野田・テイラー</b></p>
<p><b>授業内容</b> 「日本に来て驚いたこと」、「趣味」などという身近な話題について話すゲームを行った。方法は、いくつかの話題が書かれている紙から一枚を、そして教師を含む5人の参加者の名前が書かれている紙一枚を引き、その人にその質問をする形式を取っている。教師が質問の答えに対してコメントなどを促した。会話ゲームの後、花クラスの学習目標やルールを説明し、授業ごとにアンケートをお願いしたいということの説明をした。ルールには、丁寧語を常に使う、名字で呼び合うなどがあったが、授業の最後に、ルールを守ってもらいながらゲームを再び行った。</p>	
<p><b>授業の反省</b> 面白そうな話題を多く用意したが、各話題について話がはずみ、時間の都合で少数の話題にししか触れることができなかった。これは、学習者の話す能力を反映することであるが、ゲームを行っている際、多少教師の焦りが感じられた。</p>	
<p><b>実習日：7月30日(月)3時間目</b></p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：読解イントロ&lt;日本人の食生活&gt;</b></p>	<p><b>野田</b></p>
<p><b>授業内容</b> まず、花クラスにおける読解の目標を再提示した。(毎回文章を配布すること、文章の内容を最終日のディスカッションに生かしてほしいことなど。)そして、学習者が日ごろ文章をどの程度読んでいるか、その際どんな文章を読んでいるかを質問した。(3名の学習者が皆、日本のマンガを読む機会はあるつつも、基本的に日本語の文章を読む機会はほとんどないということであった。)</p> <p>次に、導入として読解教材の内容に関連する話題について学習者に質問をした。(日本の食べ物といえば何を思い浮かべるか/日本に来てから毎日の食事は自分で作っているか、外食しているか/最近の日本の食生活の中で何が問題だと考えられていると思うか、など。)そして、学習者に文章を配布し、まず黙読してもらった。教材は国際交流基金「みんなの教材サイト」“読解”より、「日本人の食生活」という800字程度の説明文である。(http://momiji.jp/kyozai/Resources/Reading/Reading_index.php)4分ほど経った時点で、一人ずつ文章を見ずに、文章を読んでどんなことが分かったか答えてもらった。その後、本文中に出てくる漢字の読み方と意味を学習者を指名して答えさせ、答えられない場合は教師が説明した。そして、文章の内容に関して、学習者一人ずつに対して口頭で質問した。(本文中に答えが書かれているような質問に限定した。)</p> <p>最後に授業アンケートを配布し、記入してもらった。</p>	

<p><b>授業の反省</b> 読解の初回ということで、中級レベルの日本語学習者を対象としたやや易しめの教材を利用したため、学習者は3人とも全体の内容を早い段階で理解した。読み方や意味が分からない漢字の説明は時間をかけて丁寧に行い、学習者からの反応（アンケート）も良かったが、最初の授業ということで時間的にも内容的にも教案に沿った授業展開を行うことに意識を注ぎすぎたために、教師が学習者に何らかの質問をし学習者がそれに答えた際、それに対する学習者への評価やフィードバックが足りなかった。また、読解を行う前に背景知識の活性化を意識して教材内容に関連する話題でのディスカッションを行ったが、予想以上に盛り上がりすぎてしまい、結果的に当初予定していた読解を踏まえたディスカッションができなくなってしまった。今回の学習者（欧米圏）は、そもそも批判的に、かつ興味を持って文章を読むことができる人ばかりだったので、読解前のディスカッション（背景知識の活性化）は抑え気味でも問題ないということに気付いた。</p>	
<p><b>実習日：</b> 7月30日（月）4時間目</p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：</b> 丁寧語イントロ</p>	<p><b>テイラー</b></p>
<p><b>授業内容</b> 授業の前半では、新入社員の不適切なタメぐちの使用についての読み物（<a href="http://career-cdn.oricon.co.jp/news/43766/">http://career-cdn.oricon.co.jp/news/43766/</a>）を読ませた。知らない漢字を教師に聞くようにと指示したが、予定していた10分では、まだほとんど読めていない様子であったので、15分に延長した。その後、分かったことを発表してもらい、興味があれば家で読んでみるようにと指示した。次に、文章の感想を聞き、学習者自身の丁寧語の使用状況へと話し合いを持っていった。授業の後半では、「です」、「ます」、「～んです」、「が」、「か」などが書かれているカードを配り、カードを選んで適切に使用して話すゲームをやらせた。その後ゲームの感想を聞いた。最後に、学習者が詳しいと思われる中学生の丁寧語の使用についてクラスでディスカッションをした。</p>	
<p><b>授業の反省</b> 読み物の感想についての話し合いはなかなかまとまらなかったが、原因は読み物の理解が浅かったことにあるだろう。また、時間が短く、知らない漢字も多かったので、達成感が得られなかったと思われる。教案では、読み物を使って話題を紹介し、読んでいないところを家で読んでもらう予定であったが、読み物の一部のみ配るなど、工夫すべきだったと思われる。カードを選ぶゲームを通して、丁寧語のバリエーションを意識してもらいたかったが、同じ表現が繰り返し使われた様子であったので、成功したとは言い難い。</p>	
<p><b>実習日：</b> 7月31日（火）1時間目</p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：</b> 読解＜日本人の喜怒哀楽＞</p>	<p><b>野田</b></p>
<p><b>授業内容</b> 最初に、文章のテーマとなっている「喜怒哀楽」という漢語について、漢字の読み方と意味の確認を行った。そして、文章を配布する前提として、日本人の喜怒哀楽に関する特徴を書いた文章であるが、この内容（日本人の特徴）に対してもう一人の教師であるテイラーは、懐疑的であったということとを伝え、文章を読んだ後で学習者からも意見をもらうということとを伝えた。その上で文章を配り、適宜</p>	

電子辞書を使って5分ほどかけて黙読させた。教材は、読解教材を公開しているサイト「リーディングチュウ太」より「日本人の喜怒哀楽」というタイトルの文章である。

(<http://contest.thinkquest.gr.jp/tqj1999/20190/jpn/chujo/chujo05.html>)

黙読の後、学習者に文中に出てくる漢字の読み方と意味を確認した。そして、予め用意した、文章を正確に読むことができるかどうかを確認するための9つの質問を学習者一人ずつ指名して答えてもらい、学習者の理解度に問題を感じた場合はそれに合わせてフィードバックを行った。(単語や文法の説明など)その後、本文の内容を踏まえて、喜怒哀楽の表し方について文章に書いてあることに対してどう思ったか、感情の表し方について日本と母国はどのように共通していてどのような相違点があるかについて意見を提示してもらい、それをもとにディスカッションを展開させた。

**授業の反省** この授業では、最後のディスカッションの際に文章に書かれている内容(例えば、アメリカ人は喜怒哀楽を表情や言動で表すが日本人は出さない、ということなど)に対する批判が多数出てきた。今回扱った教材を始め、既存の読解教材には日本や日本人の特質、日本と諸外国との文化の違いなどについて(ステレオタイプの観点も含めて)殊更強調しているようなものも少なくはない。そのような教材を使用する場合、上級学習者をはじめより日本の現状を知っている学習者にとっては読んでいて明らかに違和感を抱く可能性があり、また、初級レベルで日本についての知識が浅い学習者の場合は日本に関して誤った知識を得てしまう危険性があり、既存の教材を使用する際にはその文章の内容についてより深い検討が必要であると感じた。(この授業では、その危険性をそれほどには感じず教材を使用してしまった。)

同時に、結果的にはこのような教材を使ったことでの利点もあった。それは、文章の内容批判に基づくディスカッションが展開されたことである。文章の内容に絡むディスカッションができたということはそれだけ、学習者が文章を正確に読んでいたということにも繋がる。したがって、今後、文章を批判的に捉えるディスカッションの、読解教育における有効性についてさらに検討を重ねてみたい。

**実習日：** 7月31日(火) 2時間目

**担当：**

**授業のタイトル：** 音声イントロ

**テイラー**

**授業内容** 最初は、名前の人気ランキングについての文章( <http://women.benesse.ne.jp/hakase/sitemap/ranking.htm> (スポーツ・漫画の部分のみ) <http://park16.wak.wak.com/~dekokoko/hobby/myouji/best10000/1-100.html> (1~20のみ))に目を通し、知らない漢字に丸をつけてもらった。その漢字の読み方・意味を確認してから、もう一度読ませた。次に、文章の一部を音読してもらった。その後、音読の感想を兼ねてアクセントやイントネーションについての話し合いをし、このコースで勉強したいことを教えてもらった。授業の後半では、アクセントの練習をした。ピッチが下がる語と下がらない語があることを説明し、いろいろな名字と名前を使って練習した。漢字とその読み方をマッチさせる活動も行った。

**授業の反省** 読み物を「丁寧語」の授業のより短いものにし、先に知らない漢字の読み方を確認するという方法を取ったが、それによって理解が深まったようであった。しかし、分からない読みや意味を聞かれたとき、すぐ教えずに考えさせたりしたのでそこで時間が取られてしまった。立案の段階で、正解をどのように提示するかを考える必要があると思われる。文章の一部の漢字の読み方などを調べさせて、それを音読してもらったときに他の学習者に読み方を書き取ってもらうといった工夫をすれば、よりスムーズに進められたと考えられる。学習者自身の丁寧語の指導についての話し合いを始める際、聞きたいことを一遍にすべて提示してしまい、学習者の話のコントロールが難しかった。名前の読み方やアクセントの練習の活動では、学習者の反応がよかったが、ルールをより明確に教えることができなかったのは少し残念であった。アクセントにより多くの時間が費やせるように、導入での話し合いなどを減らすべきだろう。

**実習日：** 7月31日(火) 3～4時間目

**担当：**

**授業のタイトル：** 新聞を読む

**野田**

**授業内容** この授業では、3名の学習者の内、語彙・漢字の理解力、文章の読解力が最も高い学習者が授業に参加したが、あとの2名の学習者が都合により出席できなかったため、前者の1名の学習者とほぼ同じくらいの能力を有するイギリス人女性(名古屋大学の理系の大学院生)にこの日だけゲストとして参加してもらった。

まず、学習者はほとんど日本の新聞を読んだことがないということであったため、日本の新聞の構造について説明した。この際、実際の新聞(中日新聞)を手に取り、必要に応じて見出しや記事、罫線を指差しながら解説をした。(見出しを見るだけで記事の内容の概略がつかめる/見出しは、助詞の省略がなされたり、名詞で文が完結するなど、文構造が特殊である/記事の最初に要旨がまとめてあることが多い/新聞記事は縦書きなので、縦に読む必要がある/記事のかたまりと記事のかたまりとの間は線で区切られていることが多い/記事の終わりに氏名が書かれている場合は、その記事を執筆した記者を示している、など。)

次に、その以上の説明を踏まえて学習者とテイラー(この授業ではティーチングアシスタントとして参加してもらった)に、当日朝買ってきた朝刊3紙(朝日・読売・毎日)を渡し、野田自身は家では中日新聞を読んでいるが、他の3紙については詳しく知らないので、学習者に渡した新聞に目を通してもらい、後からその新聞の特徴について発表するように伝えた。その際、「どんなジャンルの記事が何ページ目に何ページ分くらい掲載されているか?」「読みやすい点は?読みにくい点は?」「興味深い記事・面白そうな記事は?」「母国の新聞と比べて似ている点は?違う点は?」「その他気付いた点は?」という5つの質問を書いたプリントを配布し、このプリントに沿って(適宜メモをして)新聞を読んでもらった。なお、学習者が新聞に目を通してある際教師は学習者の近くで読み方についてアドバイスしたり質問に答えたりした。そして、学習者2名及びテイラーに新聞を読んで調べた内容について発表してもらった。

発表後、朝日・読売・毎日・中日の4紙について、簡単な違いを説明した。(全国的な購読数は、読売>朝日>毎日>中日/読売は医療や科学の情報に力を入れている/朝日は海外報道が充実していて、日本の

中高大の入試や就職試験に記事が使用される頻度が最も高い / 中日は地方紙だが中部地方では全国紙と同じくらいの人気があり、地域に密着した情報や広告も多い / それぞれ社説等に反映される基本的な思想、立場に違いがある、など。)

以上を踏まえ、具体的に一つの記事を読んでもらうことを学習者に伝え、2007年7月26日の中日新聞朝刊に掲載された、TOYOTAのプラグインハイブリッド自動車の開発に関する記事のコピーを配布し、5分程度を使って読んでもらった。その後、文章に書かれている内容を理解できているかどうかを確認するための質問を学習者を指名して答えてもらい、最後に記事の内容に対する感想を話してもらった。

**授業の反省** この授業では、特に学習者から、教師が学習者に新聞の構造を説明する、という試みに対して良い反応が得られた。従来、市販の上級日本語の読解教材などにおいても新聞記事が題材となることは少なくないが、今回の授業を通して、新聞を教材として選定する場合、何らかの記事をピックアップしてその記事の内容を学習者に把握させることだけではなく、新聞全体を教材として使用し、前述のような活動を通して構造・内容を共に含めた新聞の全体像を把握させるということも、(日常的に新聞を読んでもみる、などの) 自律的学習を促す上で価値があるのではないかと感じた。

ただ、このような活動に留まると、新聞を教材として使用することで学習者の読解力そのものを向上させることには直接的には繋がらず、また今回の活動は教師主導であり、実際の日常生活で新聞を読む環境に近いというわけではないという問題点がある。これらの問題点を解決するためには、例えば教師が新聞の構造を説明した後、それぞれの学習者に見出し読みをしてもらい、その中で興味を持った記事の一つをピックアップし、精読させる、という活動も(速読・粗読と精読を一つの活動の中で両立させるという上でも)有効性が高いのではないかと考えられる。(なお、この授業については、ホームページ上に公開されている野田の研究レポートも参照されたい。)

**実習日： 8月1日(水) 1時間目**

**担当：**

**授業のタイトル： 文法イントロ(使役受身)**

**テイラー**

**授業内容** 当日までの読み物に出ていた新しい漢字を板書し、読み方とアクセントを練習した。次に、難しいと考えている文法項目を学習者に聞いて、それについて話し合った。その後、短いストーリーを三つ読みあげて、そのストーリーの主役が何をさせられたかを当ててもらった。そこで正解の動詞はすぐ出たが、使役受身の正しい形がなかなか出なかったため、形を作るルールを説明した。時間の都合でドリル練習を省き、「世界がもし100人の村だったら」という読み物を配った。読み物の内容は学習者によってそれぞれ違うが、テーマは同じであった。読み終わったら、「～が書かれていました。」「～について考えさせられました。」「～ということに驚かされました。」などを使って内容と感想を発表してもらった。

**授業の反省** 学習者3名のうち、2名が遅刻した。同じ説明を2回も繰り返し、時間通りに来ていた学習者が退屈しないような対応ができなかった。難しいと感じている文法項目について話し合いたかったが、どちらかという JLPT に出てくるような語彙に近いものが多く出て、予測していた使役受身などはほとんど出なかった。最後の活動では、例を提示しなかったが、学習者の使い方は正しくなかったため、必

要であったと思われる。	
実習日： 8月1日(水) 2時間目	担当：
授業のタイトル： 雑誌を読む	野田
<p><b>授業内容</b> まず、学習者に、雑誌(『日経トレンディ 2007年8月号』)の15ページに掲載されている「2007年上半期ヒット商品ランキング」の、順位と商品名のみを記載したリストを見せて、このリストが何を表しているのか推測して答えてもらった。その後、実際の雑誌を見せながら、これは『日経トレンディ』という雑誌の8月号に掲載されている2007年上半期ヒット商品ランキングであるということを提示し、雑誌におけるその選考基準(売れ行き・新規性・市場創出性・影響力)を説明した。また、この雑誌が、日本の様々な流行を紹介した情報誌であることを説明した。</p> <p>その後、学習者それぞれに対し、ランキングに掲載された商品の中で、知っているものはあるか、また実際にしようしたことがあるものは何か、全く知らないものは何かについて答えてもらった。</p> <p>そして、リストの中から学習者にそれぞれ興味のある3つの商品(1位~5位(雑誌2ページ分)から1つ、6位~15位(雑誌1ページ分)から2つ)を選んでもらい、その商品について書かれた記事のカラーコピーを渡し、記事の中の文章・図表・写真から10分程度を使って読み取れる情報を最大限読み取ってもらった。(その際、野田とテイラーは学習者の読解のフォローを行った。)</p> <p>読み終わったら、学習者に一人ずつ、商品について口頭で説明してもらった。1つの商品の説明につき、他の学習者(や教師)に説明した商品について知りたいこと、分からないことについて質問させ、説明した学習者に答えさせた。</p> <p>全員の発表が終わったら、全員で雑誌の「2007年上半期ヒット商品ランキング」全体(全員に全てのページのカラーコピーを配布した)に改めて目を通していき、関連したディスカッション(日ごろ日本の雑誌は読んでいるか、日本人の流行に対してどう考えるか、母国ではどんな流行があったか、など。)を行った。</p> <p><b>授業の反省</b> 日本人の(まさに授業を行ったその時点における)流行に関する雑誌を教材として使用したことで、学習者からの反応として最も大きかったのは、記事の内容が面白く、新鮮な話題であるため、読もうという意識や他の学習者の説明(商品の紹介)を聞いて質問しようという意識が高まった、という点であった。そして、この活動を通して知った知識をすぐに日常生活での日本人とのコミュニケーションにおいて活用できる、とのことであった。また、この雑誌は日本人の成人を対象としており、豊富な写真や図表が読解の助けにはなるが、学習者にとっては難解な語や表現も多いために大意を掴むことは容易ではなかったため、この活動を通して学習者に現時点での自身の日本語能力を再認識させることができた、という点も良かった。また、雑誌をカラーコピーして配布したことが、学習者がより興味を持って教材を読む上での一つのきっかけになった。</p> <p>ただ、逆に、図表や写真からその商品の特徴を推測して他の学習者に説明することも可能であり、実際にそのような場合も見られた。そこで、事前に教師が選定した教材を細部に渡って読み込み、学習者がその</p>	

<p>文章を正確に読めているかどうか判断しにくいような場合は、必要に応じてその文章を正確に読むことでしか答えられないような質問を学習者に与える必要があると感じた。(なお、この授業については、ホームページ上に公開されている野田の研究レポートも参照されたい。)</p>	
<p><b>実習日：</b> 8月1日(水) 3～4時間目</p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：</b> 環境問題</p>	<p><b>テイラー</b></p>
<p><b>授業内容</b> 2時間目の授業が長引き、本授業が15分遅れて始まった。「～んです」、「～なんです」を使えるようになると日本語がより日本人らしくなると説明し、「～んですが」、「～んですけど」、「～んですけれども」と「～ですよ」を使う場面を説明した。その後、デパートのエアコンの設定温度についての読み物を読ませ、内容について質問し答えてもらい、ディスカッションをした。次の読解活動始める前に、「～市」、「～県」のアクセント・ルールを紹介し、生成の練習をした。最後に、環境問題についての読み物(朝日新聞など)を読ませた。読み物の内容を学習者によって変えた。丁寧語で質問する練習をさせるために、読み物の最初の文を読み上げてもらい、他の学習者に内容について質問してもらった。最後に、環境問題についてディスカッションをした。</p>	
<p><b>授業の反省</b> ディスカッションがかなり盛り上がりすぎてしまい、導入した丁寧語の表現の使用はほとんど見られなかった。使わなくても言いたいことが言えることに原因があるのであろうが、コンテキスト中のドリル練習の必要性が実感できた。その他に、意見を主張するあまり一方的な話し方になってしまった学習者も見られたので、ディスカッションの管理が非常に困難であった。</p>	
<p><b>実習日：</b> 8月2日(木) 1時間目</p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：</b> 読解「外国人児童の不就学」</p>	<p><b>野田</b></p>
<p><b>授業内容</b> 本格的な読解の授業がこの時間で最後だったため、やや難しい文章を読んでもという目標を学習者に伝え、読売新聞のホームページ版である YOMIURI ONLINE に 8月1日に掲載された外国人児童の不就学に関する記事を教材として使用した。</p> <p>(<a href="http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20070801ur01.htm">http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20070801ur01.htm</a>)</p> <p>ただし、3名の学習者のうちの2名は漢字の理解力が高く、苦手意識も持っていたため、文章の内容の把握に主眼を置くために、記事の内容をそのまま書き写し、かつ、漢字にルビをふったプリントを作成して配布した。</p> <p>10分弱程度黙読させた後、いくつかの単語のアクセントをチェックすることも含めて記事を大きく3つに分けて学習者に音読させた。そして、記事の内容を理解できているかどうかに関する質問をし、学習者に答えさせた。</p> <p>最後に、記事の内容に関してどんな感想を抱いたか、どんな意見を持っているか、に関するディスカッションを行った。</p>	
<p><b>授業の反省</b> 学習者は3名とも日本の中学校や高等学校で勤務しているため、この授業で扱った記事の内容は3名にとって馴染み深い問題であり、難し目の文章であったにも関わらず積極的に読解やディス</p>	

カッションに取り組んだ。花クラスでは全日程を通して多種多様な話題を用意したが、この授業のように学習者の日常生活に何らかの形で関連している話題を読ませることも(特に読解の苦手な学習者に対して)読解を意欲的に行わせる上で効果的であると感じた。

なお、今回使用した文章はホームページに掲載されているニュースであり、学習者に限らず近年は日本人の若い世代を中心に実際の新聞よりも触れる機会が多い媒体であると思われる。したがって、この媒体そのものに関する情報提供(構造の説明も含めて)を行うことで、やや難易度が高いがアクセスしやすい素材を利用した日本語の読解の自律学習に繋がる可能性もあると思われるので、この点に関してさらに検討してみたい。

<b>実習日： 8月2日(木) 2時間目</b>	<b>担当：</b>
<b>授業のタイトル：ディスカッション「外国人の不就学」</b>	<b>テイラー</b>

**授業内容** 最初は、今までの授業で触れたアクセントのルールの復習をした。内容は、「～市」、「～人」などの複合語や「～子」、「～美」などの人名であって、下がるか下がらないかと、下がる位置を確認し、生成の練習を行った。次に、使役受身のドリル練習をした。その後、丁寧語の表現を導入した。表現は、「～ですかね」、「～と思いますけど」などのようなもので、言っている内容が正しいかどうか自信がないときに使うものと、「～と思いますか?」など相手の意見を聞きたいときに使う丁寧語である。最後に、1時間目に読んだ「不就学」の外国人児童についてディスカッションをした。

**授業の反省** アクセント・ルールのプリントが分かりにくかったようで、時間のロスにつながった。最初は内容が分からないと思い、説明し直したので、どこが分からないかをより細かく確認すべきだったと思われる。学習者のアクセントが正しくない場合、知識の問題か生成の問題か分からなかったため、訂正が難しかった。知識と生成を分けて教えたり、生成の練習をペアなどでさせるなどのような工夫が必要であろう。導入した丁寧語の表現をディスカッションで使用してもらいたかったが、ほとんど使われなかった。これは、ディスカッションが盛り上がったことや使わなくても言いたいことが言えることに原因があると思われるが、コンテキストの中のドリル練習が必要だったと思われる。

<b>実習日： 8月2日(木) 3時間目</b>	<b>担当：</b>
<b>授業のタイトル：新聞を読む(2)</b>	<b>野田</b>

**授業内容** この日の授業では、7月31日の3・4時間目に出席した学習者が欠席し、その際に欠席した学習者2名のみ授業となったので、31日に行った授業と基本的に同じ流れで授業を行った。但し、1時間のみ授業であったので、具体的な記事を精読する活動は行わず、日本の新聞の特徴を知ることのみを授業の目的とした。

**授業の反省** この日の授業でも、7月31日の授業と同様、教師から学習者への新聞の構造そのものを解説する試みに対しては良い反応が得られ、今後日本語の新聞を読みたいという意志を学習者から伝えられた。したがって、学習者の読解に対する一つの動機づけを達成できた点は良かった。ただ、31日に参加した学習者に比べるとこの授業に参加した2名は漢字の習得率、語彙の理解力が低い

<p>ため、新聞を1紙渡して全体に目を通して内容的な特徴を掴むという活動に関しては時間が足りず、当初の目的が達成できなかった。(結果的に、授業全体における教師からの説明の割合が高くなってしまった。)</p>	
<p><b>実習日： 8月2日(木) 4時間目</b></p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル： ディスカッションの準備</b></p>	<p><b>テイラー</b></p>
<p><b>授業内容</b> 後日のディスカッションの準備として、この日までに読んだ全て読み物を振り返ってゲストに聞きたいことを提示してもらった。</p>	
<p><b>授業の反省</b> 読み物を振り返ることによって、読んだものの範囲の広さが実感でき、達成感につながったようである。</p>	
<p><b>実習日： 8月3日(金) 1～2時間目</b></p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル： ディスカッション</b></p>	<p><b>野田・テイラー</b></p>
<p><b>授業内容</b> 日本人ゲストを招待し、様々なトピックについてディスカッションをした。このことを通じて、学習者に、(目上の存在である)日本人とのコミュニケーションの機会を与え、学習者が相手の言いたいことを理解し、それに対して適切な反応を適切な言語表現(丁寧語の使用も含めて)を用いて行い、円滑な相互交渉をできるようにさせることを目標とした活動であった。(日本人ゲスト： 30代男性。大学院博士後期課程修了生。企業での勤務経験あり。 30代女性。大学院博士前期課程在学。現役の高校教師。 40代女性。大学院博士前期課程在学。家庭で育児もされている。)</p> <p>教師は前日に「話題ボックス」と「名前ボックス」を用意し、話題ボックスには前日の最後の授業で学習者が提案した(授業で読んだ様々な読解教材の内容に即した)日本人への質問項目を書いたカードを入れておき、名前ボックスには日本人ゲストの名前を書いたカードを入れておいた。(質問項目： 普段の生活で環境問題の対策として、していることはあるか/大気汚染は世界レベルの問題であるが、全ての国が同じように対策をすることができると思うか/日本に住む外国人が増えたが、その外国人に対して政府や日本人はどんな取り組みができると思うか、またどんな責任があると思うか/自分の子供に有名人の名前を付けたいと思うか/子供のころと比べて洋食を食べる機会は増えたか/洋食と和食を区別する基準は何か/典型的な和食はどんなものだと思うか/生活習慣病対策として、食事を昔のように戻した方がいいと思うか/何故日本人は映画館で面白い場面を見ても笑わないのか/何故日本人は映画館でエンドロールも残って見ているのか/男性は人前で泣いても良いと思うか/自分より年下の同僚にタメ口で話しかけられたらどう思うか/日本では男性と女性は平等だと思うか/何か(流行している)ものを買うときに長時間並んだ経験はあるか/大学に入学する前に社会に出る(社会経験を積んでから大学に入学する)ことをどう思うか)</p> <p>当日のディスカッションでは、学習者に順番に話題ボックスと名前ボックスから一枚ずつカードを引かせ、話題カードに書かれた質問を、名前カードに書かれたゲストに投げかける、という形式を取った。</p> <p>なお、事前に学習者には、最低限「学習者が質問 ゲストが答える 学習者はゲストの答えに対する反応(あいづち)及び、その答えに対してさらに何らかの質問 ゲストが答える」という会話の流れを作る</p>	

<p>ことを強調した。(単発の会話で終わったり、学習者が一方的に話し続けたりするようなことを避けるため。)また、ゲストの話した内容が理解できない場合、遠慮せず、日本語を使用して理解できるまで最大限何度も質問するように伝えた。(相互交渉能力の向上を目指して。)</p> <p>また、ゲストには事前に、フォリナートークを意識せず、できる限り普段通りの自然な日本語で発話してもらうこと・学習者に質問したいことがあれば積極的に質問してもらうこと・学習者からの質問に対してはなるべく広く日本の事情を考慮して答えてもらい、個人的な意見が日本人の一般的な意見の傾向と異なる場合もそのことを紹介してもらうこと・一対一のコミュニケーションに限定せず、どんどん二人の会話に入ってもらい、を依頼した。</p>	
<p><b>授業の反省</b> ディスカッションは大いに盛り上がり、また、事前に設定したいくつかの目標も概ね達成された。また、コース全日程の読解活動が最終日にディスカッションとして繋がったことで、少なくとも読むことと話すことという2つの技能を共に考慮した授業を実現できたことは良かった。</p> <p>なお、1つの話題から次の話題に移すことや、議論の内容が逸れてしまいそうなときに元の流れに戻すことをはじめ、ディスカッション全体の進行役は教師(野田)が行ったが、この役割を学習者に順番に経験させても良かったのではないかと感じた。</p>	
<p><b>実習日：</b> 8月3日(金) 3時間目</p>	<p><b>担当：</b></p>
<p><b>授業のタイトル：</b> 反省</p>	<p><b>野田・テイラー</b></p>
<p><b>授業内容</b> 「ディスカッションの感想」「このコースの目標の達成度」「今後の目標」について話し合った。</p>	
<p><b>授業の反省</b> ゲストへの感謝の気持ちが学生から感じられた。ゲスト知識や経験が深いため、高度なディスカッションができたことや、フォリナートークがなかったことなどが挙げられた。目標の達成度を話すことによって、コースの全日程を通して問題意識ができたことが窺えた。今までは丁寧語を避けていたが今は大人と話す自信がついたなどのコメントがあった。また、コースの批判も今後の目標につながったようであった。もっと音読をしたかったので自分で練習するなどのコメントもあった。</p>	

### 3.1.4 まとめ

シラバスデザインの際、学習者目標を5つ設定した。

その一つ目と二つ目は、「よりスムーズに読めるようになること」と「読める・話せる話題を広げること」であったが、成功させるためには、各授業に読解の活動を入れる必要があると判断した。様々なトピックの読解教材を準備したことで、全日程を通して学習者が意欲的に読解活動を行うことができ、授業後アンケートにおける(トピックに対する)反応も総じて高かった。また、中には難易度が高く読

み込むことが困難であった学習者もいたものの、このコースをきっかけとしてその後の日常生活の中で自主的に日本語の文章を読んでみようという動機を学習者に与えることができたと考えられる。また教師にとっても、既存の読解教材を批判的に検討した上で、学習者が興味を持ち、かつ日本語能力の向上に繋がると思われる教材（生教材）を選定し、その教材の効果的な使用方法（指導方法）を模索し、今後の実際の日本語教育現場でも生かし得る（新聞や雑誌を利用した授業をはじめとして）読解教育の新たな試みができることは本コースにおける一つの収穫であった。

三つ目の目標である「丁寧語をより自然に使えるようになること」の達成に導くために、常に丁寧語を使うというルールを設定したり、積極的に訂正をした。最終日に日本人のゲストを招き、ディスカッションをしたが、読み物を振り返る機会となり、目標であった「話せる話題を広げること」と「丁寧語をより自然に使えるようになること」の達成度も実感できた。

四つ目と五つ目の目標であった「日本語らしいイントネーションで話せるようになること」、「難しい文法を使えるようになること」に関しては、読解の活動との時間配分が難しく、導入で終わってしまったところもあったが、学習者の意識やモチベーションを高めることができたと思われる。より体系的な導入の仕方、ドリル練習・応用練習がある指導にすることは今後の課題としたい。

（担当：テイラー・野田）

## 3.2 鳥クラス

### 3.2.1 担当実習生

古賀恵美、元春英と魏志珍の3名が担当した。ニーズ調査、レディネス分析から学習目標、シラバスデザインを行い、教案や授業内容について相談しあい、常に全体の中で自分の授業を考えるように工夫した。

また、鳥クラスは実際に授業を実施する際、メイン教師が1名で、残りの2名がサブ教師として授業を観察しながら協力し合うというスタイルをとった。観察にまわった実習生の1名は授業をビデオ撮影し、もう1名はタスクの実行に参加してもらった。そして、当日の授業が終わった後、三人で互いにフィードバックし、その日の反省をも行った。(担当:魏)

### 3.2.2 クラス目標

本クラスの目標は具体的に次のようにまとめられる。

実生活中心とした場面を「仕事関係」「生活関係」「人間関係」の三つに分け、職場や友人と円滑なコミュニケーションが取れるような知識と日本語力を身につける。

初級文法で学習した項目を使い、上記場面や機能に応じて自分が表現したいことが言える。

### 3.2.3 学習者

鳥クラスの学習者は7名で、表1に各々のプロフィールを示した。5名は(株)アルティアセントラルのALTであり、2名がその知人のALTである。3名は福井県在住で日本語コース実施期間中、名古屋市内のホテルに宿泊し、参加した。

表1 鳥クラス学習者プロフィール

学習者	性別	国籍	滞日期間	学習歴	学習機関: 自国で、 来日後	* 試験	過去実習参加
A	男	アメリカ	1年		なし、 独学		初参加
B	女	アメリカ	11ヶ月	1年 (約280時間)	語学機関で1ヶ月 独学、現在の職場 のチューター	[4級]	初参加
C	女	オーストラリア	11年	約100時間	なし 独学他	[3級]	初参加
D	男	イギリス	3年3ヶ月	約200時間	なし、 独学	3級	初参加
E	男	アメリカ	3ヶ月	1年	なし	(3級)	初参加

				(約 150 時間)	独学		
F	男	イギリス	3 年 3 ヶ月	約 60 時間	なし 独学、職場他		初参加
G	男	アメリカ	3 年 2 ヶ月	3 年 (約 210 時間)	なし 独学他	4 級	2006 年度にも参加

\* 試験は日本語能力検定試験の取得級。( ) は今後受験予定の級。[ ] は試験を受けたが、不合格。

### 3.2.4 学習者のニーズ・レディネス

クラス運営にあたり、鳥クラス学習者 6 名のニーズをまとめ、それを基に 3.2.2 の学習目標を設定した。次の表 2 は学習者全員の回答数をまとめた後、一般化して示したものである。なお、アンケート調査のできなかつた 1 名の学習者は除いた。

「話す」「聞く」「読む」「書く」について、「4 : very necessary」から「1 : Not necessary at all」までの 4 件法で回答を求めた。さらに、夏季実習プログラムでどのようなスキルや能力を身に付けたいかを尋ねた。また、表 3 は「身に付けたいスキル・能力」という項目について、その具体的な質問を示したものである。

表 2 鳥クラス：ニーズ表

(人)

4 技能	必要度				身に付けたいスキル・能力 (複数回答)			
	大変必要 である	必要で ある	あまり必 要では ない	全く必要 ではない	a	b	c	d
話す	6	0	0	0	0	3	6	6
聞く	4	2	0	0	3	5	5	5
読む	3	3	0	0	5	5	4	3
書く	1	3	1	1	3	5	3	-
日本 文化	0	4	1	1	-	-	-	-

表3 身に付けたいスキル・能力に関する質問

What are the skills and abilities that you are aiming at in this program? (Please choose as many as you like)

→ Speaking: a. Enough for greetings  
b. Enough for daily life (e.g. do shopping on my own, ask shop assistants questions, etc.)  
c. To be able to communicate with my friends  
d. To be able to use Japanese in my job

Listening: a. Enough for daily life (e.g. to be able to understand the Japanese of shop assistants and/or receptionists in a hospital, etc.)  
b. To be able to understand the Japanese of my Japanese friends  
c. To be able to understand the Japanese at work  
d. To be able to understand the Japanese on TV

Reading: a. To be able to read signs, billboards  
b. Enough for daily life (e.g. to be able to read leaflets, posters, notice boards, etc.)  
c. To be able to read mails, messages at work  
d. To be able to read magazines, novels, etc

Writing: a. To be able to fill in my name and address in documents  
b. To be able to write mails, messages to my friends  
c. To be able to write diaries in Japanese

表4 学習者個人の困難点及びニーズ

	日本語でのコミュニケーションで難しいと感じる点	特に学びたいもの
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来日時は全く日本語が分からなかったが今は少し分かるようになった。しかし、日本人が使っている単語、表現、などまだ混乱することがあり、文法も分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を学習したい</li> <li>・日本語能力試験3級に挑戦したい</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々日本語を使うようにしている。知っている単語はあるが、文章にできない。</li> <li>・待遇関係を考えた使用が難しい。よって、ときどき口から言葉が出てこず、他の人にフラストレーションを与えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚の先生などに日本語でプレゼンテーションをしたい。</li> </ul>

D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早口での会話は理解できないことが多いため、どのように適切な表現で答えたらいいのか分からない。簡単な会話や話題はいいが、特別な話題になるとコミュニケーションが難しくなる。</li> </ul>	
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くこと、話すことが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続可能な自習の方法が知りたい。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日職場で日本語を使うとき困難な点がある。</li> <li>・話すことより聞くことのほうが易しい</li> <li>・基本的な表現であれば意味を推測できるが、自分で表現するのは大変難しい。</li> <li>・語彙、文法事項の不足を感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法の学習および語彙を増やしたい。</li> <li>・日本語能力試験の4級を受験したい。</li> </ul>
G		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スラングやスキット、英語を教えるときに使う日本語を学びたい。</li> </ul>

(担当：古賀)

### 3.2.5 シラバス

	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
1限 10:00 ↓ 11:00	4クラス全員	担当:元	担当:魏	担当:古賀	担当:元
	オリエンテーション	【生活関係】 身近な紙 スケジュールを読む	【生活関係】 楽しい旅行 旅行先を決める - 提案・誘う・断る コースを申し込む、 自分で計画を立てる - ホテルの予約 - チケットの予約 行き方を聞く - 電車の乗り換えレ ベル1・2 話しかける - 写真 を撮る	【人間関係】 人とつきあう 日本人とのつきあ いの中で礼儀正しい 会話ができる。 同僚や友人との気 持ち良いつきあい方 を考える	【人間関係】 人をほめる
2限 11:10 ↓ 12:00	担当:魏、元、古賀	【人間・仕事関係】 依頼・断る A対人関係 親友・目下の人 年上の知人・同僚 目上の人 B文法項目:「～てもら う、～してくれる」等の シリーズ			担当:魏、元、古賀
	【お互いを知る】 自己紹介 スケジュール:説明 ゲーム				【アクティビティ】 (写真・好きなこ と・自分の町につい て話す)
60分 昼休み					
3限 13:00 ↓ 13:50	担当:古賀	担当:魏	担当:古賀	担当:元	初級の3クラス
	【仕事関係】 仕事について話す  自分の仕事について 分かりやすく説明す る。	【生活関係】 場所を説明する 待ち合わせの場所 についての聞き返し 自分の居場所につ いて説明する(道を迷 った) ある場所を探す:レ ベル1と2 自分の位置を説明 する(友達を招く)	【人間・仕事関係】 謝る 謝りの種類を知る。 相手との関係、親し さによって謝る表現の 使用が異なることを知 る。 感じのよい謝り方	【人間関係】 人にアドバイス Aする側 ～た/ないほうがい い ～と(ば)いい Bもらう側 ～たらいいですか /いいでしょうか ～ことは可能でし ょうか?	【日本文化体験】 習字
4限 14:00 ↓ 15:00	他の人の仕事につ いて尋ねる。		日本語能力試験 及び漢字		4クラス全員 イベント

(担当:魏)

### 3.2.6 テキスト

テキストは、クラス目標、シラバスを立てた後、教案と平行してテキストを作成した。鳥クラスは実際の日常生活でも適用できるタスクを用意し、さらに学習者により自然な日本語を学習させるために、ロールプレイを中心とした教材を主に使用した。テキストは授業担当者がそれぞれの担当内容に従って作成した。

(担当:元)

### 3.2.7 授業内容

3.2.7.1 2007年7月30日

2007年7月30日(月)	2限目	担当：魏志珍・(古賀恵美・元春英)
学習項目：		
雰囲気作り 自己紹介：教師と学生 スケジュールの説明 ゲーム(日本の生活) 運営金集め		
授業の流れ：		
1. 自己紹介： 改めて簡単な自己紹介をすること。		
2. スケジュールの説明： これからの5日間の授業内容について説明する - 最終日の(クラス内)発表の準備 (初級同士の)合同時間の「【日本文化体験】-習字」を参加するかどうかを確認する 日本語能力試験、漢字などの勉強をするかどうかを確認する		
3. ゲーム(日本の生活)： 日本での生活についていくつかの質問を投げかける。 運営金集め：2限目の最後に集める		
反省：		
初日の最初の授業ということで、教えるよりお互いに知り合うことが最も重要であると考え、あえて授業を行わずに、ゲームを取り入れることにした。お互いに初対面であるため、教師も学習者も緊張していた。ゲームを取り入れたことがクラスの雰囲気を一瞬に変えて、大きい声や笑いが出ており生き生きしていた。学習者が積極的にゲームを参加したり発言したりして、初日の初授業としては成功したと言える。		

2007年7月30日(月)	3・4限目	担当：古賀
学習項目：		
自分の仕事について分かりやすく説明する。 他の人の仕事について尋ねる。		

授業の流れ：

・ウォーミングアップ

過去にどんな仕事やアルバイトの経験があるか、尋ねる。

・現在の仕事について話す（ペア）

いつから、時間、どこで、何を、交通手段、生徒はどうか、大変なことなど

・聴解練習

男女二人が仕事について話している会話テープを聞き（自作：実習生に協力を求めた）、プリントの穴埋め問題を解く。もう一度テープを聞く、区切りのよいところで止めながら答え合わせ。

表現「って知っていますか」など、意味の確認。

- 10分休憩 -

・文法項目「～のは、～のが、～のを」

文の接続の形を説明し、文例を示す。

A:その仕事の難しいところは？ B：生徒や先生と日本語で話すのは難しいです。

プリントの質問に沿い、自分の仕事について記入する。（今日学んだ表現や文法項目を入れる）

質問例

その仕事の好きなのところは？ 仕事で一番うれしかったことは？

これから仕事でやってみたいことは？ など

のプリントをもとに、ペアで仕事について Q&A

・フィードバック、今日の文法の整理

反省：

学習者のレディネスやインタビューをもとに学習者の日本語力を予測し、教案を立てたが、一部の学習者には内容が難しかったようだ。「仕事について話す」というタスクを中心に授業を進め、文法項目の説明は確認する程度に留めるつもりでいた。しかし、4人が初めて学習する項目であったため、急遽文法説明の時間を設けるなど教案の内容や時間配分を変更するなどして対処した。タスクを達成するため必要な文法項目の導入、丁寧な文法項目の説明、練習の必要性を感じた。

聴解練習に使用したテープの会話の速度が速く、すぐに聞き取ることができなかった。また、聞き取った内容を記入させるのは、普段日本語で文章や文字を書く機会のない学習者には困難であったようだ。

以上の点から学習する文法項目の選択、初日は学習者のレベルを把握する、緊張を和らげることを目的とした活動を行うなど再考の余地がある。

授業後ふりかえりシートでは「一日中、日本語で話せたことが嬉しかった」「自信を持つことが必要だ」などのコメントがあった。

2007年7月31日(火)	1・2 限目	担当：元春英
<p>学習項目：</p> <p>身近な紙を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の意味が理解できないときに、意味を聞く表現、そして意味を聞き返す表現を学ぶ</li> </ul> <p>依頼に関する表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼をする表現を学ぶ</li> <li>・依頼を引き受ける表現を学ぶ</li> <li>・依頼を断る表現を学ぶ</li> </ul>		
<p>授業の流れ：</p> <p>身近な紙を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーミングアップ</li> </ul> <p>・「学校の掲示板に貼ってある文字が読めないときに、あなたはどのような聞き方をしますか」を学習者に答えてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの実行</li> </ul> <p>・「郵便局からお知らせが届いていますが、漢字ばかりで意味がわかりません。人に聞いてみてください。」</p> <p>聞く側を決める</p> <p>ロールカードを配る</p> <p>隣の人とペアを組む</p> <p>一組か二組みに発表してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習項目の導入</li> </ul> <p>(1) 聞き方の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文型の提示</li> </ul> <p>フォーマルな会話、インフォーマルな会話に使える表現をそれぞれ教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話での聞き方</li> <li>・その他の表現</li> </ul> <p>(2) 聞き返すときの表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な表現</li> <li>・丁寧ではない表現</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリル練習</li> </ul> <p>人間関係の変化により、聞き方や聞き返す表現を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル会話の提示</li> </ul>		

モデル会話を見せ、読んでもらう。つぎに、内容や単語の意味を解説する。

- 10分休憩 -

・ウォーミングアップ

「日曜日に彼女(彼氏)とドライブに行きたいですが、車がありません。友達には車があります。その友達に借りてください」

何人かを指名して答えてもらう。

・ロールプレイの実行

依頼する側：「旅行に行きますが、隣の人に部屋の面倒を見てもらいます。その人に依頼を求めてください。」

依頼される側：「依頼をしにきた人に引き受けるか、時間がないと断ってください。」

指名してペアを組ませる。

依頼をする側と依頼の求めに答える側を決める。

ロールカードを配り、説明を行う。

話してもらう。

・学習項目の導入

- ・ 依頼するときの表現
- ・ 依頼を引き受けるときの表現
- ・ 依頼を断るときの表現

・ドリル練習

親しい友達や目下の人に対する表現、目上の人やよく知らない人に対する表現に注意しながら、練習を行う。

・モデル会話の提示

モデル会話を見せ、内容や単語について解説を行う。

反省：

「身近な紙を読む」授業においては、1時間の授業時間に比べ、事前に準備した学習項目の内容が多すぎる感じがした。そのため、教室活動の流れとしての最後のタスクが未完成のまま、授業が終わってしまった。限られた時間以内に学習者が必要となる知識のポイントを絞ったほうがもっと効果的ではないかと思われる。そして、最初のタスクを実行する際にロールカードの文字に頼りすぎてしまって、学習者は指示や内容が理解できずに、時折混乱が見られた。学習者のレベルを把握できておらず、カードの漢字に英訳や説明を細かく付けるべきだった。ドリル練習も学習者にプリントを配り、実際は学習者と口頭で行うつもりであったが、意図がはっきり伝わらず、プリントに書いてもらい発表する形式になってしまった。

「依頼に関する表現」の授業においても教室活動の流れとして最後のタスクが実行できなかった。口

ールプレイの段階でカードの内容の説明や指示の仕方は先回の授業より改善されているが、時間をうまくコントロールできず、ドリル練習時間をオーバーしてしまって、最後のタスクの実行に影響を与えてしまった。学習項目を導入し、ドリル練習を経てモデル会話を説明した後、学習者に呼んでもらう予定だったが、時間を使いきってしまい、解釈を行った時点で授業が終わってしまった。春季実習のタスク用意不足で困った教訓を得て、多くのタスクを準備したおかげで良かったと思われる。

2007年7月31日(火)

3・4限目

担当：魏志珍

学習項目：

### 【生活関係】 - 場所を説明する

聞き返す：

聞き取れなかった部分、または、分からない部分があったとき、どのように聞き返すかの表現を学ぶ。

自分の位置を説明する：

道を迷ったとき、どのように自分の居場所を友達に伝えるかを学ぶ。

場所を探す：

人に道を教えてもらうとき、教えてくれた通りに辿り着くこと。

友達に道を教える：

家に遊びに来る友達にどのように道案内するかを学ぶ。

授業の流れ：

ウォーミングアップ：

「AさんとBさんは一緒に映画を見に行く。しかし、Bさんは映画館の場所を知らない。でも、映画館の近くにあるマクドナルドの場所が分かる。」「こんなとき、どのように約束しますか？」

気づき - モデル会話(一)：

学習者にモデル会話を聞かせる。

「会話を聞いて何か気づいたことがあるか」と質問を投げかける。

学習者にもう一回モデル会話を聞かせる。

もう一回「会話を聞いて何か気づいたことがあるか」と質問を投げかける。

文型「って」：

モデル会話には聞き返すときに使う文型「って」を導入。

説明が終わったあと、ドリル練習をする。(絵カード)

気づき - モデル会話(二)：

「AとBは少し違います。どこが違うか聞いてください。」学習者にA会話とB会話を聞かせる。

「会話を聞いて何か気づいたことがあるか」と質問を投げかける。

会話の内容を配って、気づかせたい部分を空白にした。

文型「Question with question word + か～」:

文型を説明する

ドリル練習

方向の導入(1):

モデル会話(二)において、「(主人公である)トムさんは(ワイドボードに貼ってある地図の)どこにいますか」と質問を投げかける。

練習問題を配って書かせる。

「手前」と「先」を説明

- 10分休憩 -

練習問題の答えを合わせる

聴解練習 - 方向:

聴解(1)×2回が終わってから、答えを合わせる。

聴解(2)×2回 答えを合わせる 聴解(2)の内容を文字起したものを渡す。

方向の導入(2):

ホワイトボードに絵を書いて、学習者に質問を投げかける。

「まっすぐ行く」「右に曲がる」「左に曲がる」「一つ目の信号を右に曲がる」「二つ目の角を左に曲がる」「道を渡る」「橋を渡る」

方向練習 - 「ゲーム」:

教師はモデル会話を読んで、学習者にホワイトボードに道を書かせる。

気付き - モデル会話(三):

会話をやる前に、気付かせたい部分を空白にしておいたスクリプトを配る。

会話を聞かせたあと、「何か違いを感じましたか」と質問を投げかける。

文型「～と、～」:

文型を説明した後、ドリル練習をする。

活動 - インフォメーション・ギャップ:

「AとBの地図はちょっと違います。AさんはBさんに『スーパー』『喫茶店』『郵便局』などを聞きます。BさんはAさんに『コンビニ』『レストラン』『銀行』などを聞きます。」(ペアでやる)  
終わった人に質問をする。

反省:

導入しようとする項目は、学習者に教える前に、まず気付かせようとした。「気付き」が終わったあと、「何か気付いたかどうか」を確認するために、学習者に「何か気付きましたか?」という質問を投げかけたが、結局殆どの学習者がうまく答えられなくて意味不明の質問になってしまった。そもそも、理解を伴わない気付きを言葉で表現すること自体が難しく、初級の上の学習者にその違いを言わ

せることはさらに難しいことであろう。

文法（接続詞）を説明するとき、学習者から「どうして『non-polite form + 接続詞、~ polite form。』のような形は目上の人でも使える」という質問が出た。結局、「語レベルの polite form と文レベルの polite form が違う」という一語だけで学習者の疑問を晴らせるのに、2分以上もかかって説明した。自分自身の勉強不足と経験の浅さを痛感した。

質問をするとき、遠慮しがちの学習者に対して、発言したい人を発言させるより教師のほうから指名したほうが、発言のチャンスをより均等に与えられる。学習者をよく観察して、どのような方法で指名するかを決めるべきである。

3 . 2 . 7 . 3 2007年8月1日

2007年8月1日（水）	1・2限目	担当：魏志珍
学習項目：		
<b>【生活関係】 - 楽しい旅行</b>		
友達を誘う：		
人を誘うとき、これまでの自分はどのような誘い方を使ったのかを認識し、日本人とどのような違いがあるのか？または、誘われて行きたくない場合、どのように断るのか？		
ホテルを決める：		
ホテルパンフレットを見て、どのように選ぶのか？（部屋のタイプ、食事付くかどうか...など）どうやって予約するのか？		
行き方を聞く：		
行きたい場所の行き方が分からないとき、どのように聞きだすか？		
授業の流れ：		
ウォーミングアップ：		
「日本に来てから、どこかへ旅行したことがありますか？」と学習者に質問を投げかける。		
気付き - 場面（一）：		
会話を聞いて、（教師からの）質問を答える。（「会話」「質問」「会話」「質問」）		
「どうして京都へ行かないですか？」「誰を誘いますか？」「どこへ行きますか？」		
導入「~ので、~」、「のような」：		
会話に使われた文型「~ので、~」、「のような」を導入する。		
簡単なドリル練習をする（「気付き」を通して、学習者は「ので」という文型を既に理解しているようである。そのため、説明はなるべく簡略にした）		
「誘う・断る」表現：		

日常生活においてよく使われている表現と「誘う・断る」の流れを紹介する。

「誘う・断る」活動

活動シートを配って、「クラス内の3人を誘ってください。同じ日に誘われたら、片方を断ってください。」というルールを説明する。活動の後、教師のほうからそれぞれの学習者のスケジュールについて質問をする。

- 10分休憩 -

気付き - 場面(二):

ホテルの名前、値段、部屋のタイプなどを書いてある表を配る。

会話を聞いて、「どのホテルを決めたか」を学習者に質問を投げかける。

導入「～より～のほうが～」、「かどうか」:

「～より～のほうが～」は既に理解できたようで、説明するとき、簡略に説明した。

前日に教えた「～が分かりません」と比較しながら、「かどうか」を説明する。

場面(三) - 電車の乗り換え:

会話を聞いて、学習者に質問を投げかける。

電車の乗り換え - 表現:

地図を見ながら、「～までの行き方」などの表現を説明する。

モデル会話をもう一回やってみせる。

活動 - 電車表現:

活動シートを配る。

「乗り換え」「～までどうやって行くのか」という練習。

反省:

場面の説明から文法への切り替えはやや不自然で、失敗とは言えないが、スムーズとも言えない。場面から文法への繋がりはもっと工夫すべきであると思う。

活動は予想した通りに成功していたが、説明するときはあまりうまく説明できなくて、学習者に困らせるように見える。教師の指示をもっと明確にする必要がある。

教えようとするものが多すぎて、もっとしぼるべきである。大雑把に教えるよりもう少し詳しく少なくて教えたほうが学習者にも負担にならないであろう。

学習者が結構メモを取っていたため、教師はやむを得ずメモを取っている学習者を待つしかなかった。事前に、教えるポイントをプリントにして、授業後に配るといったような対策で対応すべきである。そうすると、学習者は教師の説明を集中して聞くだけで良い。

2007年8月1日(水)	3・4限目	担当：古賀
学習項目：		
<p>謝りの種類を知る。</p> <p>相手との関係、親しさによって謝る表現の使用が異なることを知る。</p> <p>感じのよい謝り方を練習する。</p>		
授業の流れ：		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーミングアップ 電車の中で忘れ物をした経験があるか尋ねる。</li> <li>・会話作り(ペア) 「友達に借りた傘を電車の中に置き忘れ、友達に謝るという」ストーリーの絵をもとに、会話を作り、発表する。謝るときに「～てしまいました」が使えることを確認する。</li> <li>・新出語彙(動詞)を絵カードで確認する。(なくす、汚す、忘れる、壊す、捨てるなど) 新出語彙を使い、文法項目「～てしまいました」に接続する練習。</li> <li>・モデル会話の提示 「持ち主のわからない職員室に置いてあったケーキを同僚の先生に勧められて食べる。持ち主に見つかり謝る」という設定で、どのように謝ったらいいか考える。 モデル会話を提示し、謝りのプロセス(謝る 話を始める 説明・理由を述べる もう一度謝る これから気をつけるなどの行動を言う)の説明、モデル会話を練習し、教師がいくつかの場面を与え実際に謝る練習をする(友達に借りた辞書をコーヒーで汚す、友達にもらった時計を落とすなど)</li> <li>・様々な謝りの表現をプリントで確認 場面を与えどの謝りの表現を使ったらよいか考える。(学校の会議に遅れる、友人との待ち合わせ時間に遅れるなど)</li> <li>・フィードバック、今日の文法の整理</li> </ul>		
- 10分休憩 -		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験問題(2級、3級、4級) 漢字学習 学習したいものを選び問題を解く。実習生3名が巡回指導。時間内にできなかったものについては宿題とした。</li> </ul>		
反省：		
<p>3コマ目は比較的易しいタスクであったため、楽しんで学習ができたようだ。授業についていけないと自信を失いがちであった学習者1名も積極的に発言をした。学習者からは「申し訳ありません」などの謝りの表現があることを知らなかった、相手や内容に合わせて謝りの表現を選ぶことを学んだなどのコメントがあった。</p>		

3コマ目の最後にロールプレイ練習を予定していたが時間の都合でできなかった。 の練習を効果的に行えば、ロールプレイ練習の時間を設けられた。

については学習者のニーズが高かったため予定していた読解授業から変更した。実習生3名が学習者の質問に答える形で進めた。能力検定試験や漢字学習は継続した学習が必要であるが、今回の実習では時間的な制約から、毎日行うことはできなかった。これらの学習について、学習者から「文法学習の必要性を感じた」「漢字の覚え方のコツが学べた」など肯定的なコメントが得られた。僅かではあるが、学習の動機づけにつながったようである。

### 3.2.7.4 2007年8月2日

2007年8月2日(木)	1・2限目	担当：古賀
学習項目：		
日本人とのつきあいの中で礼儀正しい会話ができる。 同僚や友達との気持ち良いつきあい方を考える。		
授業の流れ：		
<p>・ウォーミングアップ 友達や同僚の先生とよく食事をしたり、飲みに行ったりするか。その際、誰がお金を払うことが多いか。 新出語彙の確認「おごる」「わりかん」「ごちそうになる」</p> <p>・ロールプレイ 場面設定「昼休み、学校の近くの喫茶店で同じ学校の先生Bと食事をしました。今1時5分前で、そろそろ学校へ帰らなければならない。Bさんにいつも食事をごちそうになっているので、今日はおごりたいと言う」 ロールプレイ後、発表 ・同僚の先生、友達の2種類の会話を聞いて違いを考える、会話文の穴埋め、解答合わせ ・文法・表現 意向形「(そろそろ)Vようか」 意向形のドリル練習、プリントの絵を見ながら意向形を使い相手を誘う(ペア)</p> <p>・聴解練習 「いいよ」「いいですよ」のイントネーションによる二つの意味の区別 2種類の意味を確認し、問題を解く、回答、発話練習</p>		
- 10分休憩 -		
<p>・ロールプレイ のロールプレイを今日の学習項目を使い再現、発表 ・フリートーク 「割り勘」についてどう思うか</p>		

反省：

日本人とのつきあいで「割り勘やおごり」を話題に取り上げ授業を進めたが、実際このような場面が頻繁にあるかどうか疑問が残る。意向形を使った誘いの会話は、学習者の反応もよく、実生活でも使うことがあると思われる。

の聴解練習では、微妙なイントネーションから日本人の意図することを推測することの難しさを訴えていた。

2007年8月2日(木)

3・4限目

担当：元春英

学習項目：

アドバイスに関する表現

- ・アドバイスをするときの表現を学ぶ
- ・アドバイスを求めるときの表現を学ぶ

カルタゲームと日本語能力試験問題の対策

授業の流れ：

・ウォーミングアップ

・絵カードを使い、「テレビが壊れました。どうすればいいですか、アドバイスしてくれませんか」と学習者に質問を投げ、答えてもらう。

・ロールプレイの実行

- ・「いつも英語で悩んでいます。英語が上手になりたいです。どうすればいいですか」

学習者全員が英語教師であることを利用する

教師が学生の役を演じる

学習者一人一人に、アドバイスを伺う。

・学習項目の導入

アドバイスする時の表現

- ・文型の提示
- ・丁寧度が低い表現から高い表現の順によって勉強する
- ・誰に対して、どんなときに何をを使うか、表現を勉強する

アドバイスを求める時の表現

- ・文型の提示
- ・目上の人に丁寧に聞く場合と友達に聞く場合の表現を学ぶ
- ・その他によく使う表現

場所や時間、人、手段、物について聞く場合のアドバイス表現を学ぶ

・ドリル練習

文型の練習をする。

人間関係や丁寧さによって異なる表現を使うように練習させる。

・モデル会話の提示

モデル会話を学生に読ませ、解説を行う。

・ロールプレイの実行

「教えているクラスにとてもうるさい学生がいます。ほかのベテランの先生にアドバイスをもらってください」

ロールカードを配る。

カードの内容を説明し、指示を行う。

リストの紙を配り、誰に、どのようなアドバイスをもらったか書いてもらう。

ロールプレイを実行してもらう。

学習者一人一人に発表してもらう。

- 10分休憩 -

教室活動

カルタゲーム

日本の文化が体験できるように、カルタゲームを用意した。まず、ゲームのルールを説明する。そして教師がカードを読み上げると、学習者がデスクの上にあるカードを探す。カードが一番多く取れた学習者が勝ちになる。

日本語能力試験問題の対策

学習者のニーズに応じて日本語能力試験問題の時間を設けた。学習者のレベルが異なるため、4級から2級までの試験問題を用意した。教師は学習者の解いた答をチェックし、質問や間違ったところを説明した。

反省：

授業の時間がうまくコントロールでき、教室活動も順序どおりに行われた。しかし、学習項目の導入の段階で学習者から予想外の質問があり、それについて説明を行うのにいろいろな問題が出た。例えば、絵カードの示し方がうまくできなかつたり、文字カードの順序が間違つたり、指示の仕方が曖昧だったりした。そして、学習者からの質問に答え方も簡潔ですぐ理解できるようにすべきだったが、話す内容が長くなってしまい、学習者に余計に混乱をもたらした。

限られた授業時間内で全部の教室活動の流れを行うのにはかなりの緊密な工夫が必要であることを深く感じられる。

カルタゲームの時間は皆が積極的に取り組み、笑い声が絶えなかつた。能力試験問題の時間も自分の不足が感じられた様子であった。

2007年8月3日(金)	1・2 限目	担当：元春英
<p>学習項目：</p> <p>褒める表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人をほめるときの表現を学ぶ</li> <li>・人にほめられるときの表現を学ぶ</li> </ul> <p>自分の写真や絵を紹介する</p>		
<p>授業の流れ：</p> <p>褒めことば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーミングアップ</li> </ul> <p>「皆さんは英語の先生ですね、自分の学生をどのようにほめていますか、英語でもいいですよ」と雰囲気を作る。</p> <p>一人ずつ答えてもらう</p> <p>「学校で同僚をほめるときにどのようにほめていますか」</p> <p>絵カードを用いる</p> <p>女性と男性によって異なる表現を話してもらう。</p> <li>・ロールプレイの実行</li> <p>「校長先生や同僚、学生、友達に対してほめる際に、どのような言い方をしますか、どのようほめ方はよくないと思いますか」</p> <p>校長先生、同僚、学生、友達の役をする学生を決める。</p> <p>学生にほめてもらう。</p> <p>校長先生の場合や友達の場合のほめ方が同じでいいかを話し合う。</p> <li>・学習項目の導入</li> <p>(1) ほめる時の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほめてもいい相手</li> <li>・文型の提示。</li> <li>・よく使う表現の提示。</li> </ul> <p>(2) ほめられたときの表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほめられた場合に、「ウチ」の人を「ソト」の人に自慢するよりは謙遜したほうがいい</li> </ul> <li>・ドリル練習</li> <p>文型を提示した上で、簡単なドリル練習を行う。</p> <p>話す練習とテキストにある問題を解決する練習をする</p>		

・モデル会話の提示

モデル会話を学生に読んでもらう。そして解説を行う。

・ロールプレイの実行

「今日、友達 Aさんと東山公園に行きました。友達は買ったばかりの腕時計をしています。とても似合っていました。友達の時計をほめてください」「今日、友達 Bから買ったばかりの腕時計をほめられました。あなたはどのように答えますか」

ペアを組ませ、友達 Aさんと Bさんの役をするように指示する。

ロールカードの内容を説明し、指示の仕方を行う。

ロールプレイを実行してもらう。

皆の前で発表してもらう。

- 10分休憩 -

自分の写真や絵を紹介する

・ 授業の狙いは今まで既習した表現を利用し、学習者のスピーチ能力をアップさせることである。授業が始まる 2 日前に、教室活動の内容を説明し、自分のお気に入りの写真や絵を用意するように話しておいた。

授業が始まった後は、授業を始めてから 10 分ぐらい時間を与え、学習者に準備してもらう。

発表の時間を事前に決めた。

順番はくじ引きの形式を取り、発表が終わった学習者が次の発表者の名前を引いてもらった。

発表者は皆に写真や絵を見せながら紹介した。

発表が終わるとほかの学習者からの質疑応答の時間をもうけた。

反省：

「褒める表現」の教室活動においては学習者全員が盛り上がった。しかし、最後のロールプレイを実行する際に、学習者に与える時間が長すぎたため、学習者の世間話のタイムになってしまった。シラバスを立てるときにもうすこし時間上で工夫を凝らしたほうがよかった。教室活動を全部完成させるためには教師が授業の流れをうまくコントロールし、学習者を引っ張っていくことが重要であった。

スピーチの授業においても時間制限を決めたが、時間をオーバーしてしまい、最後の発表者を授業時間に気を遣わせてしまった。教師は制限された時間内に何ができるか、何ができないのかをよく考えた上で行動すべきではないかと感じた。

### 3.2.8 鳥クラス全体の反省

学習者のニーズ、レディネスに差があること、短期コースという時間的制約を考え、日常生活にすぐに使えるようタスク中心のシラバスを取り入れ、語彙、文法については必要なものをその都度補っていく形をとることにした。文法の学習や会話のスキルアップを望む学習者など多様なニーズに応えるため

に、文法に重点を置いたり、会話練習を多く取り入れたり、学習内容や練習内容のボリュームに変化をもたせた。コース初日に学習者のニーズを再度確認し、ニーズが高かった日本語能力試験の過去問題や漢字の学習をシラバスに取り入れた。実際授業を始めると、教師の指示が分からない人から、タスクを終え時間をもてあまして人まで学習者のレベル差を感じた。そのため、学習者のレベルに併せ、教師からの質問やタスクの難易度を変えたり、ペア学習時に、サブの教師が巡回し会話に加わるよう工夫をした。

授業では、ペア学習や共同作業を多く取り入れたり、席替えを毎日行うなどした。その甲斐あってか、学習者、教師の相互理解が深められた。親しみやすく相手の立場をよく考える学習者の性格も大きく影響を与えたと考えられる。

1名の学習者は、学習開始時に授業についていけず、「クラスが変わったほうがいいのか」と不安を訴えていた。しかし、学習半ばには、次第に授業スタイルにも慣れたためか次第に発話も増え、授業についてこられるようになった。本人の忍耐と努力、教師の声かけ、他の学習者の協力的な姿勢なども要因として考えられる。

毎日授業が終わった後、学習方法や困難だと感じるものなどについて自分の学習過程の意識化を促すために、「ふりかえりシート」に記入してもらった。教師は学習者個人の気づきの変化が見られ、授業内容やタスクを調整することができた。しかし、この「ふりかえりシート」について、フィードバックを行うことができなかつたため、意識化の効果は十分であったとは言いがたい。シラバスにフィードバックの時間を組み込むなどの見直しが必要である。

今回の学習内容が学習者の運用につながり、実際の生活に活かされているかどうかは不明である。本プログラム終了後、数ヶ月後に学習者にヒアリングするなどのフォローアップを行えば、教師は自分の教授内容について振り返る機会が得られ、また、次年度の実習生に有益な情報が提供できるのではないかと考える。

(担当：古賀)

### 3.3 風クラス

#### 3.3.1 担当実習生

ラトナーヤカディルルクシ、陳暁貞の二人が担当した。1名が授業を担当する際、もう一名は授業観察や、ビデオ、テープの操作など、授業に必要な他の仕事を行った。各授業後、授業を観察した実習生が自分が見た問題点などを授業を行った実習生に提示し、話し合った。

#### 3.3.2 クラス目標

風クラスの目標は、学習者の知っている語彙を増やし、文法的に正しい会話ができるようになることである。このクラスの学習者は、ひらがな、かたかなや漢字も少し、既に知っていた。会話レベルは、簡単な自己紹介ができる、簡単な日本で話す内容が分かる程度である。日本語の総合的な力を高めるという目標ではあるが、短期間で同等の比重で扱うことが無理だったため、このクラスでは、場面ごとに、語彙を増やすことや、より文法的でありより正確な日本語の知識を高めることを目標とした。

#### 3.3.3 学習者

風クラスの学習者は初日、3名であったが、二日目から1名が中級クラスに移動した。2名はアメリカ人だったが、1名はオーストラリア人だった。

表 学習者

学習者	国籍	性別	在日期間	学習暦	学習機関		ALT 歴 過去実習参加
					自国	来日後	
A	アメリカ	男	4年	継続的 になし	独学 なし	4年 2005,2006	
B	アメリカ	男	4ヶ月	1年	独学 なし	3ヶ月 初参加	
C	オーストラリア	女	4ヶ月	2年	大学 なし	4ヶ月 初参加	

#### 3.3.4 テキスト

テキストはクラス目標、シラバスを立てた後、教案と平行して作成した。風クラスの目標は、基本的に、学習者の語彙を増やすことだったため、絵プリントを通し語彙を導入した。また、文法形式については、各授業で用いる項目と形式、例などの説明プリントも作成した。

#### 3.3.5 学習者のニーズ・レディネス

事前アンケートとインタビューによって学習者のニーズを尋ねた。学習者別のニーズとレディネスのまとめを以下の表に示す。

表 風クラス：ニーズレディネス表

学習者	ニーズ	レディネス
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙を増やしたい</li> <li>・ 読む練習をしたい</li> <li>・ 日常生活において周囲の人々とコミュニケーションできるようになりたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語の学習はほとんど独学。昨年度のこのコースに参加したことがある</li> <li>・ ひらがな、漢字はゆっくりなら読める、カタカナは読めない</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から流暢な会話ができるようになりたい</li> <li>・ 日本語能力試験 3・4 級取得に向けた勉強をしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母国の大学で 1 年間日本語を勉強した</li> <li>・ 『ようこそ』 終了、は少し</li> <li>・ ひらがな、カタカナは読める。漢字は少しなら読める</li> </ul>

### 3.3.6 シラバス

機能シラバス、場面シラバス、文法シラバスの折衷シラバスを採用した。

表 風クラスのシラバス

	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3
午前	4 クラス合同 オリエンテーション	担当：陳 「旅行」について話す	担当：ディルクシ 日常生活で必要な日本語	担当：陳 「誘う」と「断る」について	担当：ディルクシ 「困ったとき」の日本語
	担当：ディルクシ 自分を表現する				担当：陳 「頼む」について
60分 昼休み					
午後	担当：ディルクシ 自分を表現	担当：ディルクシ 日常生活で必	担当：陳 「買い物」について話す	担当：ディルクシ 「病気」につ	3 クラス合同の 習字大会

	する	要 な 日 本 語 ・	(比較表現)	いて話す	
	担当：陳 自分を表現 する				4 クラス合同パ ーティ

### 3.3.7 授業内容

2007年7月30日	2限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「～ています」		
<p>自分を表現する（職業や住む場所などが話せるようになることが目標）</p> <p>学習者が自分のこと（名前、年、職業名など）を簡単に紹介できる日本語能力を持っていたが、より具体的に自分のことを説明するのに必要な文法項目を導入し、日常会話で必要とされる単語を与えることをこの授業の目標とした。そして、「～ています」の文法項目を用い、自分の仕事の内容を説明することや、他人の仕事の内容を聞くこと、また、住む場所を話すことができるようになることを目指した。また、自分の仕事の様子が説明できる形容詞、様々な職業名などの語彙を与えた。</p>		
授業の流れ		
<p>ブレインストーミング</p> <p>聞き取りテープを用いて、3つ自己紹介の例を聴き、内容を確認する。</p> <p>テープの内容で現れた文法形式「～ています」の導入</p> <p>「～て形」の復習</p> <p>実習生が作成した職業を表す語彙の写真プリントを基に、日常会話に必要な新しい語彙の導入</p> <p>「～ています」を用いて、自分の職業、住む場所などを加え、自己紹介する</p>		
反省		
<p>初めての授業だったこともあるが、学習者のレベルを理解するのに時間がかかった。インタビューやアンケート調査では、学習者のレベル判定していたが、実際の授業を始めてから三人の学習者のレベルの差が著しく大きいと感じられた。学習者三人は実際には大きく3つのレベルに分かれると考えられた。授業は準備したとおり流れていったが、文法項目として選択した項目や語彙はすでによく身につけていた学習者もいれば、まっ</p>		

たくはじめての学習者もいたため、既に少し知っていた学習者のことは不安だった。また、授業で与えた語彙のボリュームが、初めてその語彙を見た学習者にとっては多かったと反省している。さらに、与えた語彙のフィードバック練習はできなかった。自己紹介という感じで学習者が自分のことを発したが、学習者同士の日本語の会話がまったく見られなかったのが残念だった。

2007年7月30日	3限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「～ことです」		
<p>自分を表現する（趣味、好き嫌いが話せるようになることが目標）</p> <p>自己紹介の際、自分の趣味について話すことや、他人の趣味を聞くことを目指した。そのため、「～ことです」の文法項目を導入し、趣味、娯楽、スポーツなどの分野から使用頻度が高いと思われる語彙を与えた。この授業も基本的に、学習者が知っている語彙を増やすことや、文法的に正しく、より具体的な説明ができるような日本語能力を付けさせることを目標としていた。</p>		
授業の流れ		
<p>前回の授業の流れとして、まずは、自分の仕事の様子を簡単に説明する練習をした</p> <p>次に、新しい項目のブレンストーミングとして、暇なときの過ごし方について学習者と会話した</p> <p>趣味の表し方として、文法項目「～ことです」の導入</p> <p>動詞の辞書形の復習</p> <p>実習生が作成した写真プリントで世界の様々な趣味を表現する語彙を与える</p> <p>最終的に、全員に職業、住む場所、趣味、好き嫌いなども入れて改めて自己紹介をしてもらった。</p>		
反省		
<p>学習項目は学習者のニーズやレディネスを基に考察したものだが、学習者のレベルの差があったため、途中でどうすればよいか迷った。また、より良く会話の練習ができる授業にすればよかったが、そのような会話練習になると、全員が同じように達成できないことがわかったため、場面を中心にして語彙やその場面で用いると想定できる文法項目を徹底的に教えることに決めた。したがって、学習者自身の日本語発話が非常に少なかったと反省している。</p>		

2007年7月30日	4限目	担当：陳曉貞
学習項目：「～ほしい」「～したい」		

自分を表現する (ほしいもの、やりたいことが話せるようになることが目標)
授業の流れ
<p>夏休みの予定について学習者に聞いて、学習項目を説明する</p> <p>「ほしい」「したい」に関する語彙・文法を提示する</p> <p>例文を作ってもらおう</p> <p>お互いにインタビューする</p>
反省
<p>根本的に、学習者はあまり漢字が読めないことを、私は忘れていたので、最初、漢字ばかり書いてしまった。気が付いてすぐひらがなを補足したが、板書は読みにくくなってしまった。</p> <p>また、授業中に学習者の英語の使用頻度が思ったよりも高かったので、初日は英語で質問に答えることがうまくできなかった。</p> <p>全体的に今日のトピックは学習者にとって身近な話題だったためか、発話が盛り上がって授業はスムーズに進んだ。</p>

2007年7月31日	1・2限目	担当：陳曉貞
学習項目：「旅行について話す」		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数字の言い方(年月日、曜日)</li> <li>・ 「過去形」</li> <li>・ 疑問詞</li> <li>・ 読む練習</li> <li>・ それに関する語彙</li> <li>・ 生教材</li> </ul>		
授業の流れ		
<p>前日の学習項目『自己紹介』を復習。学習者は自己紹介をした。</p> <p>聞き取り練習：「数字」の言い方を確認する。</p> <p>「過去形」と「日にち」の言い方を確認する。</p> <p>「旅行」についての短い文章を読ませる。</p> <p>「疑問詞」の意味を確認する。</p> <p>旅行に関する語彙を提示する。</p> <p>生教材：実際に旅行チラシを見せる。</p>		
反省		

クラスに(3名の学習者の内)学習歴が長い学習者と短い学習者が一名ずついたため、授業の進め方と難易度の把握が難しかった。授業後、学習者から「生活に役に立つ」という声や「簡単すぎる」という声が聞こえた。

全体の反省は、教案を作成するとき、教える内容(量)を重視したため、授業時間に対して扱う内容は多すぎて、学習者の発話機会が十分に取れなかった。また、授業全体の目標とそれぞれの学習項目の関わりをもっと真剣に考えるべきだった。

2007年7月31日	3限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「～は～の～にあります・います」		
<p>日常生活に必要な日本語（物、人、場所の位置の説明ができるようになることが目標） 日常生活では、学習者にもっとも必要とされると想定できる、ものや人の場所の位置を尋ねることや教えることをテーマとし、文法項目と語彙を与え、こういった場面において、学習者が順調に反応できるようになることを目標とした。特に、ここでは、「は」「の」「に」の助詞とあります・いますの存在動詞の使用ができるようになることを考えた。</p>		
授業の流れ		
<p>作成した絵プリントを用い、場所の位置に関する単語と、文法項目を同時に復習する 「(上、下、周り)、(～の～にあります・います)」</p> <p>さらに、練習のために、様々な場面を表す絵プリントを用い、教師と学習者の会話練習 (例)Q：～はどこですか A：～の～にあります・います</p> <p>インフォメーションギャップを基に作成した絵プリントを用い、学習者同士の会話練習</p> <p>絵プリントをもとに、地図の読み方に関する語彙を与え、練習する 地図を基に、場所を尋ねる、教える、の聞き取り練習 地図を基に、場所を尋ねる、教える学習者同士の会話練習 絵プリントを用い、新しい単語与える（家庭で用いられるもの、場所の名前）</p>		
反省		
<p>学習者の日本語能力の判定の問題があったため、学習者の中で、単語をまだ習得していない一人と習得が早い一人がいた。その影響は授業の全体的に問題となっていた。 単語をたくさん与えたが、その単語を覚えたかどうかのフィードバック練習はできなかった。この授業は、進行が少し速かったと反省している。内容が多くあったため、すべて教えることが困難であった。また、ものの位置や、地図を読むことは別々のテーマとして扱うべきだった。授業の流れでは、物や場所の位置からはじめ、地図を読むまでの</p>		

範囲は広がったと考えられる。

2007年7月31日	4限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「～てください・～ないてください」		
日常生活に必要な日本語（依頼表現の習得が目標） 日常生活では、基本的に不可欠な文法項目であり、使用頻度もかなり高いと思われる文法項目として「～てください・～ないてください」を選択した		
授業の流れ		
道を尋ねるといった3限目で扱った場面を使用し、「～てください」「～ないてください」の文法項目の聞き取り練習から始まった ～てくださいの用法の説明 ～て形の復習 作成した絵プリントを用い、様々な場面において「～てください」で依頼を考えさせる 「～ないてください」の復習 「～ない形」と「～ないてください」の形の練習 日常生活で出会う「～てください」「～ないてください」の例を基に作成したプリント この授業が終わる段階で、今までの流れや、自分がやりたいことなどについて学習者と日本語で会話した		
反省		
全体的にフィードバックが足りなかったことを反省している。のプリントには、日常生活で学習者が直面する場面における依頼例の一覧を与えた。ただし、そのプリントを渡し、情報を与えただけであり、習得できたかどうかフィードバックはできなかった。「～てください」「～ないてください」は学習者がある程度知っている項目だと想定して復習といった感じで、日常生活で出会う情報に注目するつもりだったが、想定していたほど学習者がこの項目を習得していなかった。そのため、「～て形」の練習や、「～てください」の用法などを説明するのに時間がかかった。		
2007年8月1日	1限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「形容詞」		
日常生活に必要な日本語		

<p>形容詞についての基本的なことを通し、簡単に、人、もの、場所の様子が説明できることを目標とした。また自分の好き・嫌い、得意・不得意点について話す知識を与えることも考えていた</p>
<p>授業の流れ</p> <p>学習者の質問により、前回の授業「～てください」は「～くださいますか」までの発展をする</p> <p>形容詞の基礎知識及び復習（イ・ナ形容詞）</p> <p>作成した絵プリントを基に形容詞の認識の復習</p> <p>学習者の部屋、国、国の食べ物などの様々なもの、人、場所の様子の説明</p> <p>学習者の好き・嫌い、得意・不得意なことについて会話</p>
<p>反省</p> <p>前回の授業内容にあった項目について学習者からの質問で、最初多少教案から離れた。学習者が授業の途中であるその授業に直接関係がない質問の場合どのように対応すればよいかはさらに考えるべきだと思った。特にこの授業は学習者に支配されたような感じがした。自分がやりたいと思っていたことに時間が足りなかったと思った。</p>

2007年7月30日	2 限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
<p>学習項目：「～くて、～で」</p>		
<p>日常生活に必要な日本語</p> <p>食生活や、食べ物に関する語彙を増やし、その食べ物や、食事について自分の意見を話すことを目標とした</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>ブレインストーミングとして学習者の食生活について質問する</p> <p>絵カードを用い、料理や食べ物の語彙の復習または、新しい語彙を与える</p> <p>作成した絵プリントを用い、料理や食べ物に関する語彙のフィードバック</p> <p>文法項目「～くて、～で」の復習</p> <p>絵プリントで見た料理の認識と様子の説明、自分の国の料理の様子の説明</p>		
<p>反省</p> <p>写真で導入したある単語が学習者にとってまったく新しいものだったが、口頭で導入したこと、つまり、板書したり、プリントにしたりしなかったため、学習者が正しく習得したか判断できない。この授業は学習者が日本語で話していたが途中で英語に変わってしまったことをうまくコントロールできなかったことを反省している。</p>		

2007年8月1日	3・4限目	担当：陳曉貞
学習項目：「買い物」について話す		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ _____と_____と(では)どちらが_____ですか？</li> <li>・ _____のほうが_____です。</li> <li>・ _____のほうが_____より_____です。</li> <li>・ _____と_____と_____では、_____が いちばん_____です。</li> </ul>		
授業の流れ		
<p>比較表現を教える：より、いちばん</p> <p>比較表現に関する程度副詞を教える：ずっと・すこし・ちょっと</p> <p>聞き取り練習1:二つのものを比較する</p> <p>聞き取り練習2:二つ以上のものを比較する</p>		
反省		
<p>「より」の教え方が悪くて学習者を混乱させた。</p> <p>「より」を提示したときに、ゆっくり説明しなかったので、学習者が「より」の意味用法を身につけることができなかった。</p> <p>学習者が理解せずに、「AのほうがBより高い」を「BよりAのほうが高い」に置き換えの練習をさせたので、さらに大きな混乱を招いた。</p> <p>文法項目を教える際に、板書の重要性をはじめ意識した。例えば、「より」の場合は、「AのほうがBより高い」と書くより、「Aのほうが高い」を先に提示し、基準となる「Bより」の部分の後に加えたほうがより分かりやすいではないかと今考える。説明するときの順番を工夫する必要がある。</p> <p>全体的に、文法説明の部分は悪かったが、最後の聞き取り練習を通して、学習者に「より」の意味用法を改めて説明して、学習者がやっと理解できた。</p>		

2007年8月2日	1・2限目	担当：陳曉貞
学習項目：「誘うと断る」		
<p>「誘う」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ~ませんか</li> <li>・ ~ましょう</li> <li>・ ね</li> </ul> <p>「断る」について</p>		

・ すみません、～ので
授業の流れ
<p>誘う人と誘われる人を指名し、誘いを受けるロールプレイをやらせよう。</p> <p>使われた表現を板書する。</p> <p>モデル会話を見せる。</p> <p>文法を説明する。</p> <p>誘いを断るロールプレイをやらせよう。</p> <p>使われた表現を板書する。</p> <p>モデル会話を見せる。</p> <p>文法を説明する。</p> <p>もう一度ロールプレイをやらせよう</p>
反省
<p>前日の授業と異なり、今回は、学習者にトピックだけを提示し、その場合何を言ったほうがいいかを考えさせた。意外と学習者の反応がよくて、活発に発言して非常に盛り上がった。また、学習の理解を促進するには4、5日目の2日間は媒介語の使用の点も大きく改善した。例えば、英語解説付きのプリントを配ったり、英語で説明や指示をしたりした。</p> <p>全体的に今日の授業は前の授業よりよくなったが、大きい欠点が1つ挙げられる。プリントに英語の説明がついていたので、学習者が教師に質問する回数が減ってきた。授業がうまく、速く進んだ一方、学習者が英語に頼って日本語を使おうという気にならなかった。従って、どうやって媒介語を利用したほうがいいかを考えるべきであった。</p>

2007年8月2日	3限目	担当：ディルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「～てもいいですか」		
基本的に病気に関する語彙を習得することや、病院での場面を中心に、何かをするための許可をもらう言い方を復習する		
授業の流れ		
<p>ブレインストーミングとして病気になった人の会話の聞き取り練習</p> <p>作成した絵プリントを基に体の部分の名前、病気の名前を中心に語彙の導入、復習</p> <p>～てもいいですかの項目の復習</p> <p>「ヤンさんと日本の人々」のビデオを見る。課題はビデオ内容における「～てもいいですか」の項目とその場面において相手の答えをピックアップする練習</p>		
反省		

このトピックにおいて学習者が知りたがっていた語彙が多かった。絵プリントで出した語彙の数以外にも学習者からの質問で語彙を教えることになった。ただし、授業時間内には、そのすべての語彙の習得についてフィードバックはできなかった。

2007年7月30日	4限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「病気に関する語彙」		
病気に関連する語彙を習得させることを目標とした。		
授業の流れ		
日常生活ではよく耳にする、病気に関する語彙を単語かした絵プリントを基に単語の使用や意味理解		
ヤンさんと日本の人々のビデオ見る		
ビデオを基に単語のフィードバックや新しい句の意味理解		
別の絵プリントを用い、病気に関する単語のフィードバック		
反省		
この授業は基本的に語彙習得といった目的で進めていきたいと考えていた。会話や応用練習はできなかったことは反省している。		

2007年8月03日	1限目	担当：ディルルクシ ラトナーヤカ
学習項目：「困ったときの日本語」		
最後の授業であったため、時間的には非常に限られていた。日本で生活するときに身につけてほしいと推定された単語や会話の理解を目指して授業を行った		
授業の流れ		
絵プリントを基に自然災害に関する単語を与え意味理解		
困ったときに日本語でよく使用されるフレーズのプリントを基に話し合う		
日本での自分の困ったときの経験を話し合う		
反省		
自分の経験を話してもらうことについては、英語が多くて日本語の会話にならなかった場合もあった。この点をうまくコントロールできなかったことを反省している。ただし、一人、自らなるべく日本語で話したいと思っていた学習者がいたため、少しは助かった。		

2007年8月3日	2限目	担当：陳曉貞
学習項目：「頼む」		

「頼む」について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ~んです</li> <li>・ よ</li> </ul>
授業の流れ
<p>頼む人と頼まれる人を指名し、断る場合のロールプレイをやってもらう。</p> <p>モデル会話を見せる。</p> <p>文法を説明する。</p> <p>ロールプレイをやってもらう。</p> <p>午後のアクティブティの準備(習字と写真について発表する)</p>
反省
<p>一人の学習者が道に迷って遅刻したので、授業時間が短縮されて、最後のロールプレイの時間さえ取れなかった。授業の進め方は前日とあまり変わらず学習者を考えさせる時間を与え、答えをもらう形にした。学習者が前日より活発に発言してくれましたので、良かった。</p>

### 3.3.8 風クラス全体の反省

事前に学習者のニーズやレディネスを調査したが、実際に授業を行うといろいろな問題が出てきた。問題点を大きく三つに分けて取り上げる。

一番問題になったのは、「学習者のレベル判定」と「学習者の日本語能力の差」であった。事前アンケートやインタビューを行ったものの、学習者のレベルがなかなか把握できなくて、結局、風クラスにいた3名の学習者間の日本語能力差が明らかとなり、どのレベルに焦点をあてて授業を組み立てるべきかが非常に難しかった。結局、二日目から1名が中級クラスに移動した。

二番目の問題は「授業のバランス」であった。授業全体的には、文法、語彙、聞き取り練習、読解、生教材の運用を全部取り入れて量的にも質的にも十分な授業だと考えられる。しかし、ほとんどの活動で学習者が受動的になってしまった。学習者は積極的な発言が少なかったし、教師の発言は授業の三分の二以上を占めたので、学習者の会話練習の時間が短かったり、学習者にフィードバックする時間が足りなかったりした。

最後は「媒介語の使用」であった。媒介語の使用は語彙の言い方程度に押えたかったが、学習の理解を促進するには英語解説付きのプリントを配ったり、英語で説明や指示をしたりした。しかし、プリントに英語の説明がついていて、授業がうまく速く進んだ一方、学習者が英語に頼って日本語を使おうという気にならなかった。従って、どうやって媒介語を利用したほうがいいのかをもっと十分考えるべきであった。

(担当：ディルルクシ・陳)

### 3.4 月クラス

#### 3.4.1 担当実習生

サウエットアイヤラム・テーウィット（ピン）、初恵珠（グレイス）の2名が担当した。ニーズ・レディネス分析から学習目標、シラバス決定を行い、分担を決めた。そして、お互いの教案や教材、それぞれの授業の教え方や問題点、学習者との接し方についても相談し合い、常に全体の中で自分の授業を考えるようにした。

また、月クラスは1名が教える時は、もう1名は授業のアシスタントをしながら観察にまわるという形式をとった。観察に回った実習生は授業の内容に遅れて理解できていない学生をフォローしたり、タスクの参加者の一人として参加したり、教師のロールプレイの相手役をしたりした。さらに、教師である実習生の教授行動について観察し、授業後に互いにフィードバックをとった。

#### 3.4.2 クラス目標

月クラスの目標は、「日本で生活するのに必要となるサバイバル日本語の習得」とした。月クラスの学習者は、日本に3年ぐらい住んでいるが、話す機会が非常に少なく、ほとんど日本語が話せないというインタビュー結果が得られた。そのため、日常生活に必要な表現を習得し、実際場面で問題がなく使用することができるようになることが必要だと考え、目標とした。また、実習生は学習者が日本の生活で毎日遭遇するような語用論的な場面（例えば、依頼、誘い、断りなど）を重視する必要があると考えた。さらに、今後自分一人で日本語が学習できるように、文字（平仮名）の勉強も導入した。

#### 3.4.3 学習者

月クラスの学習者は3名で、全員男性であった。学習者AとBは、アンケートの結果から、ひらがなもカタカナも読み書きができないので、最初からゼロ初級だと判断し、月クラスに入れた。学習者Cは一つ上のレベルの風クラスに編入したが、本人は風クラスのレベルが自分にとって高すぎると思っているので、月クラスに入った。

学習者	A	B	C
国籍	イギリス	アメリカ	カナダ
学習歴	ゼロ	ゼロ	回答なし
滞日期間	3年間	3年間	5年間

参加日	5日間全部参加	5日間全部参加	2日目から参加
-----	---------	---------	---------

### 3.4.4 学習者のニーズ・レディネス

学習者のニーズとレディネスの調査は、事前アンケートと電話インタビューにて行った。学習者Aは添付ファイルを開けなかったため、メールにニーズとレディネスについて書いてもらい、電話インタビューの時に再確認を行った。また、学習者Cについては、まったくアンケートの回答がなかった。調査結果を下記の表にまとめた。

月クラス：ニーズ・レディネス表

学習者	ニーズ	レディネス
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校で学生たちと一緒に昼食を食べるので、小学生たちと簡単な会話をしたい。</li> <li>・ 日常生活での簡単な会話をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平仮名を覚え、カタカナを勉強し始めた。漢字はほんの少ししか読めない。</li> <li>・ 日本語の授業を取ったことがあるが、主に数字の教え方であった。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活や、学校で日本語を使いたい。</li> <li>・ 友達と簡単な日本語で話し、メールのやり取りをしたい。</li> <li>・ 看板や道の標識を読みたい。</li> <li>・ 日本語テレビ番組を理解できるようになりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まったく日本語を勉強したことない。</li> <li>・ 平仮名、カタカナ、漢字は読み書き全部できない。</li> <li>・ 数字や時間、値段を聞いて少し理解できる。</li> <li>・ 簡単な自己紹介ができる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答なし</li> </ul>

### 3.4.5 シラバス

	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
10:00~	ORIENTATION	平仮名(た-は) & 単語	買い物の漢字	あいさつ言葉 第4課	第5課

11:00		第1課の復習 グレイス	時間表現の練習 ピン	電話する グレイス	依頼する・断る ピン
11:00~ 12:00	生徒さんと会話 クラスの目標 信頼関係を築く 日本語の発音 グレイス	第2課 注文する ピン	第3課 誘う・断る ピン	方向・場所 の表現 グレイス	まとめ+ アンケート
13:00~ 14:00	平仮名(あ-さ) 教室用語+挨拶 第1課の単語 ピン	数字表現 時間表現 ピン	病気の言葉 第3課の復習 グレイス	方向・位置 (2限目の授 業内容確認) ピン	日本文化体験
14:00~ 15:00	第1課 (自己紹介) グレイス	日・月・年 の表現 グレイス	平仮名(ま-ん) 促音・長音 グレイス	場所を聞く活動 平仮名(残り) ピン	イベント

### 3.4.6 テキスト編集

テキストは、クラス目標、シラバスを立てた後、作成した。その結果、2005年度に作成、使用されたゼロ初級クラスのテキスト『ひまわり』を改訂し、作成した。何故なら、『ひまわり』の方針と実習生の方針が合っていたからである。

### 3.4.7 授業内容

2007年7月30日	2限目	担当：グレイス
学習事項		
日本語の構造（平仮名、カタカナ、漢字、ローマ字） ローマ字で50音図の発音練習 濁音（が、ざ、だ、ば、ぱ）と拗音の発音練習 学習者の名前のカタカナを教える		
授業の流れ		
ウォーミングアップ 自己紹介&運営費を徴収 クラス目標と流れを説明		

<p>日本語の構造を紹介する</p> <p>50 音図の発音練習</p> <p>歌で行の順番を覚えさせる</p> <p>濁音と拗音の発音練習をする</p> <p>学習者に自分の名前のカタカナを教える</p>
<p>反省</p> <p>アンケートでは、2人の学習者とも平仮名、カタカナがまったく読めない、書けないという結果であったが、授業が始まる前に、1人の学習者が覚えてきたので、彼にとっては少し簡単すぎたかもしれない。また、歌で「あ、か、さ、た、な」の順を口ならしで覚えてもらいたかったが、2人しかいないのと、音楽もないため、学習者は躊躇しながら小さい声でしか歌わなかった。カタカナで自分の名前の書き方を教えたが、名前の「V」の発音が「B」になったと少し不満を感じた学習者もいた。</p> <p>学習者に教室の言葉（～ください）を覚えてもらいたく、指示を全部日本語で言ったが、やはり少々無理があった。途中で日本語と英語を両方使った。</p>

2007年7月30日	3限目	担当：テーウィット
学習事項		
教室用語		
平仮名「あ行」～「さ行」		
授業の流れ		
<p>教室用語の紹介</p> <p>教室用語を絵で当てさせるゲーム</p> <p>平仮名の紹介</p>		
反省		
<p>教室用語は少し時間をかけてしまった。また、教室用語を絵で当てさせるゲームは、「意味が分かるが、絵は分かりにくい」というコメントを学習者Bからもらった。絵ではなく、意味を当てさせるほうがわかりやすいのではないかと思った。</p>		

2007年7月30日	4限目	担当：グレイス
学習事項		
『月クラスの教科書』の第一課：「自己紹介」を教える		
授業の流れ		

第一課の文法項目の導入：

「～です。」「～～ですか。」「いいえ、～～じゃありません。～～です。」

「どこからきましたか。」「～のどこからきましたか。」

「お仕事は何ですか?」「何歳ですか?」

自己紹介の練習 1

「はじめまして」「どうぞ、よろしくお願いします。」を導入。

第 1 課の Dialogue 1 を導入し、読む練習をする。

Dialogue 1 の例文を使い、自己紹介をする。

自己紹介の練習 2

「こちらこそ、よろしく」「ご出身は?」「～のどちらですか」を導入。

第 1 課の Dialogue 2 を導入し、読む練習をする。

Dialogue 2 の例文を使い、自己紹介をする。

ロールプレイ練習

反省

自己紹介は学習者が学校でもよくする会話なので、意味をすぐ理解できた。その代わりに、言葉はどちらが丁寧なのか、「こちらこそ」の意味は何なのか、「教師」と「先生」はどう違うかなどの質問がたくさん出た。初日の授業で緊張していたために、きちんと答えられなかった。例えば、「こちらこそ」の意味を聞かれたとき、「me too」としか答えられなかった。今回の学習者は、学校でも上下関係があるので、言葉の丁寧さに興味があった。どの言葉が丁寧なのかと言うような質問はよく出た。これに対し、もう少し詳しく準備するべきであった。

2007年7月31日	1限目	担当： グレイス
学習事項		
平仮名「た行」「な行」「は行」		
授業の流れ		
平仮名「あ行」「か行」「さ行」の復習		
平仮名「た行」「な行」「は行」の導入		
第一課に出た「の」(英語の先生)の確認		
反省		
「な」の書き順を自分の書き慣れた順で書き、教科書と違うのだと学習者に指摘された。「ふ」は、教科書では上と下が繋がっていないが、白板では繋がっているように書いた。どちらが正しいか、日本ではどちらをよく使われているかと聞かれた。形は教科書と違う時、必ず学習者に質問された。平仮名だからといっても、きちんと準備してこななければならない。		

2日目から参加する学習者は発言がかなり多かった。その学習者の質問に答えるのに結構時間がかかった。授業中に気付かなかったが、後でもう一人の実習生に、他の2人の学習者はちょっと不機嫌な顔をしていたと指摘された。授業では教師が主導権を持ち、全員に均等な注意を配るべきであると感じた。

2007年7月31日	2限目	担当：テーウィット
学習事項		
注文する 注文と関わる表現		
授業の流れ		
<p>注文する時の教師同士によるロールプレイ</p> <p>教師によるジェスチャーの説明</p> <p>ダイアログを一緒に読む。</p> <p>ロールプレイ</p> <p>説明（英語）を読ませ、文法の練習を行う。</p>		
反省		
<p>教師は緊張したため、会話の台詞を一つ忘れてしまった。また、言語の形式と意味をマッピングさせようと思って、分かりやすいジェスチャーを表示して理解させようと思った。しかし、一人の学習者から分からなかったと指摘された。学習者に存在している知識をもう少し活性化するほうがよかったと思った。</p>		

2007年7月31日	3限目	担当：テーウィット
学習事項		
数字表現 時間表現		
授業の流れ		
<p>1から10まで言えるか確認と練習。</p> <p>11から20まで言えるか確認と練習。</p> <p>百、千、万を教える。</p> <p>数字の練習</p> <p>インフォメーション・ギャップのゲーム</p> <p>時間表現</p>		
反省		
<p>教師は数字のビンゴ・ゲームを準備してきた。しかし、緊張したため、そのゲームの紙をどこに入れた</p>		

か忘れてしまった。また、最初に行われた数字の確認はちょっと簡単すぎたので、もう少しレベルをアップして教えるほうがいいのではないかと考えた。

2007年7月31日	4限目	担当：グレイス
学習事項		
日にちの数え方：「ついたち」「ふつか」・・・「さんじゅういちにち」 月の数え方：「いちがつ」「にがつ」・・・「じゅうにがつ」 年の数え方 曜日の数え方：「げつようび」・・・「にちようび」		
授業の流れ		
「ついたち」から「さんじゅういちにち」まで紹介し、読む練習をする。 「いちがつ」から「じゅうにがつ」まで紹介し、読む練習をする。 自分の誕生日で練習する。 年と曜日の数え方を紹介し、練習する。 日本の2007年のカレンダーを使い、練習する。		
反省		
日にちの数え方を、学習者の誕生日など身近なもので練習したので、かなり活発であった。しかし、「何年生まれですか？」の年の練習をした後、学習者に指摘され、彼らの国では、年齢を聞くのがタブーであって、皆の前ではあまり話さないという事であった。 授業後のアンケートでは、3人とも「勉強になったが、ちょっと内容が多かった」と書いた。数字の数え方を勉強したといっても、まだしっかり覚えていない。また、日にちや月の数え方に例外が多いので（「きゅうがつ」×）、彼らにとっては少し負担になったようである。		

2007年8月1日	1限目	担当：テーウィット
学習事項		
スーパーでよく使用される漢字 時間表現の活動		
授業の流れ		
スーパーでよく見かける漢字の意味を推測させる。 時間表現の復習 時間表現のタスク 友達に聞いた結果の発表		
反省		

スーパーで買い物する時によく見かけた漢字(3割引、タイムサービス等)の形と意味をマッピングさせようと思って教えた。特に問題がなかったし、学習者からの反応も悪くなかったが、時間を思った以上に10分ぐらい使いすぎた。そのため、時間表現のタスクと発表が短くなってきて、全体のバランスがあまりよくなかったと実感した。

2007年8月1日	2限目	担当：テーウィット
学習事項		
誘い・断りの表現 「食事に行きませんか」「いいですね。是非」「～行きましょう」 「でも、明日は～があるので...」「また今度お願いします」		
授業の流れ		
<p>日常生活では普段どのように誘っているのが学習者に尋ねる。板書する。</p> <p>日本人の誘いを聞かせてから(教師同士のロールプレイ)、テキストを読ませる。</p> <p>重要な表現をカードにして、ホワイトボードに貼る。</p> <p>「～に行きませんか」 「いいですね。是非」、「行きましょう」</p> <p>誘いの活動(学習者同士及び学習者と教師のロールプレイ)</p> <p>断りの表現について聞く。普段どのように断っているのが学習者に尋ねる。板書する。</p> <p>日本人の断りを聞かせてから(教師同士のロールプレイ)、テキストを読ませる。</p>		
反省		
<p>学習者が日本に3年いること、完全に100%ゼロ初級ではないことから、今回の授業はまず学習者自身に気付かせたところから始まった。そのため、反応はかなり良かった。学習者が自分自身知っている表現、実際のコミュニケーションでは役立つ表現を勉強することができて、盛り上がっていたと思った。しかし、1時間の授業であるため、学習者の答えや意見を全部トピック化することができなかった。また、誘いの表現を教えたとき、教師も学習者も盛り上がりすぎたため、断りの表現を説明する時間は少なくなった。時間の管理をさらに行う必要があると考える。</p>		

2007年8月1日	3限目	担当：グレイス
学習事項		
<p>教科書 p.31：病気を表す言葉</p> <p>教科書第3課：「さそう」を教える</p> <p>「～たいんですが」「欲しいんです」を教える</p> <p>平仮名「た行」「な行」「は行」の復習</p>		

授業の流れ
<p>教師が言葉を読み、もう一人の実習生に演技し、学習者に意味を当ててもらおう。</p> <p>一緒に病気を表す言葉を読む。</p> <p>学習者に普段友人を誘う時の聞き方から導入し、誘うときに使う言葉を教える。</p> <p>P.18の会話文を使い、練習する。断るところは病気の言葉を使ってもらおう。</p> <p>「～たいんですが」「欲しいんです」を教え、練習する。</p> <p>平仮名「た行」「な行」「は行」を復習する。</p>
反省
<p>もう一人の実習生の演技を見て、学習者が楽しそうに、積極的に意味を当ててみた。学習者に自分で意味を考える事で、言葉が印象に残るのではないかと思ったが、実際どれくらい学習者が覚えているかが不明であった。また、学習者が日本の言葉の文化にもかなり興味があった。例えば、校長先生に「大丈夫ですか。」と聞かれたとき、なぜ大丈夫ではないのに、「大丈夫です。ありがとうございます。」と言わなければならないのかと。学習者が日本で生活し、日常に耳にする「生の日本語」と教科書の会話文が不一致や、日本人はどうしてそのように話すのかに大変興味があるようなので、もう少し準備してくれば良かったと思った。そして、学習者が教室用語にもだんだん慣れてきて、日本語の指示にすぐ反応ができるようになった。媒介語については、教師のほうも、どこが英語で言うべきか、どこが日本語で言うべきかわかってきて、授業がスムーズになってきた。</p>

2007年8月1日	4限目	担当：グレイス
<p>学習事項</p> <p>平仮名「ま行」「や行」「ら行」「わ行」「ん」</p> <p>促音と長音</p> <p>「～から～まで」(時間・スケジュール)</p>		
授業の流れ		
<p>平仮名「ま行」「や行」「ら行」「わ行」「ん」を教える。</p> <p>促音と長音の違いを紹介する。</p> <p>「何時から何時まで～をしますか。」「～時から～時まで何をしますか。」の練習をする。</p> <p>まず絵と文字の意味の確認の練習をし、次に学習者同士で「～から～まで」の文型を使い、質問と答えをし合った。</p>		
反省		
<p>平仮名においては、2人の学習者が覚えてきたので、とても細かいところに注意を向けた。例えば、「ま」は横の線から書くのに対し、なぜ「も」が縦の線から書くのか、「お」と「を」はどうして同じ発音な</p>		

のか、などの質問があった。準備不足で答えられなかった。これに対し、もう1人の学習者にとっては、平仮名だけがどうしても付いていけなかった。対策ができなくて、とても無力だと感じた。

平仮名の授業に入る前、「ちょっとつまらないものを教える」と言ったが、授業後ある学習者から、「教える前に教師が難しいとか、つまらないと言ったら、学習者の方のやる気がなくなるよ」と指摘された。

2007年8月2日	1限目	担当： グレイス
学習事項		
日本語のあいさつことば 月クラスの教科書：第四課		
授業の流れ		
<p>あいさつことばのローマ字を正しい絵のところに書いてもらい、答えを合わせる。</p> <p>実際の日本人のあいさつの使い方を紹介する。例：夜出勤しても「おはようございます」</p> <p>教科書第四課：遅刻するとき、友達に電話する。</p> <p>「～と思います」「～ね」「～よ」を教える。</p>		
反省		
<p>学習者が文化のことに興味を示したので、あいさつことばを導入した。学習者もとても興味津々に聞いてくれ、学習者間にも積極的な討論が行われた。しかし、目下に対し使用することばはあまり使う機会がないというコメントであった。「～ね」と「～よ」は、学習者にとってよく耳にすることばなので、とても興味を示してくれた。</p>		

2007年8月2日	2限目	担当： グレイス
学習事項		
<p>方向・場所の名詞：「上」「下」「左」「右」「中」「外」「前」「後ろ」</p> <p>「～は～の上にあります/います」</p> <p>「～はどこにありますか/いますか」</p> <p>「何がありますか」</p>		
授業の流れ		
<p>「上」「下」「左」「右」「中」「外」「前」「後ろ」を教える。</p> <p>小道具を使い、「～の上」「～の下」などの意味を確認。</p> <p>「～は～の上にあります/います」を教える。</p> <p>「～はどこにありますか/いますか」を教える。</p> <p>「何がありますか」を教える。</p>		
反省		

学習者にとって、一度に8つもの方向・場所の名詞を授業で覚え、すぐ使うのが難しかったようである。「前日に名詞を教えてもらえば、家で覚えてくることができるので、授業での効率がよくなる」という学習者のコメントがあった。また、「は」と「が」の使い分けも不明のまま授業が終わってしまった。「あります」と「います」の使い分けはすぐわかったようである。聴解練習をしたが、絵についての説明と確認が不足で、学習者がついていくのが大変だったようである。

2007年8月2日	3限目	担当：テーウィット
学習事項		
場所・方向(2限目)の内容確認 「まっすぐ行って、一つ目の角(2つ目の信号)を右(左)に曲がって下さい」「右側」「左側」		
授業の流れ		
<p>「部屋の中」「部屋の外」「机の上」「机の下」の確認</p> <p>インフォメーション・ギャップのゲーム</p> <p>「まっすぐ行きます」</p> <p>「～を曲がって下さい」</p> <p>「まっすぐ行って、一つ目の角(2つ目の信号)を右(左)に曲がって下さい」</p>		
反省		
場所を表すことばを理解しているかどうか、順番を正確に言えるかどうかをみるために、インフォメーション・ギャップのゲームを導入した。しかし、指示のところをローマ字にしたが、地図の中にある建物の名前・場所はローマ字にするのを忘れた。そのため、最初の5分はちょっとスムーズに行かなかった。予め配るプリントを再確認する必要があると反省した。		

2007年8月2日	4限目	担当：テーウィット
学習事項		
場所を聞くタスク 平仮名(残り)		
授業の流れ		
<p>場所を聞く活動</p> <p>平仮名「ガ行」～「ボ行」</p>		
反省		
3限目のとき、「まっすぐ行って、～を右(左)に曲がって下さい」を教えたため、その表現のままを使用すると思った。しかし、学習者は「まっすぐ行きます」或いは「～を右(左)に曲がります」と発話した。そして、教師は「さっき教えた文型を使いましょう」と働きかけた。授業後、ゆっくり考えて		

みたところ、「まっすぐ行きます」或いは「～を右（左）に曲がります」もコミュニケーション上問題がない。さらに、学習者にとって「～て、～て下さい」は難しすぎるかもしれないので、「～ます」で言い終わるのではないかと思った。

2007年8月3日	1限目	担当：テーウィット
学習事項		
<p>依頼・断りの表現</p> <p>「ちょっとお願いがあるんですが...」「～てもらいたいんですが」</p> <p>「いいですよ」「わかりました」「今はちょっと...」</p>		
授業の流れ		
<p>日常生活では普段どのような依頼仕方を行うのか学習者に尋ねる。板書する。</p> <p>日本人の依頼仕方を聞かせてから（教師同士のロールプレイ）、テキストを読ませる。</p> <p>重要な表現をカードにして、ホワイトボードに貼る。</p> <p>「～てもらいたいんですが」</p> <p>「いいですよ」と「わかりました」の使い分け</p> <p>依頼の活動（学習者同士及び学習者と教師のロールプレイ）</p> <p>「今はちょっと...」</p> <p>断りの活動（学習者同士及び学習者と教師のロールプレイ）</p>		
反省		
<p>「～て形」を簡単に説明して、「～てもらいたいんですが」は必要となる単語のみ導入した。例えば、「日本語を教えてもらいたい」、「仕事を手伝ってもらいたい」、「英語を訳してもらいたい」等である。しかし、学生Bは「～て形」の形を少し混乱していた。導入する場合、もう少し「～て形」を説明する必要があると思う。また、教師は重要な表現（AとBの会話）をカードにして、ホワイトボードに貼った。そして、矢印でその順番を表現した。しかし、矢印だけで同じ人の会話なのか、違う人の会話なのか、少し分かりにくいという指摘が授業の後で学習者Cからあった。対策として、カードの色を同じにしない（例えば、Aの会話は青で、Bの会話は赤にする）ほうが良いと学習者Cから進めてもらった。</p>		

### 3.4.8 月クラス全体の反省

学習者の反応に気になりすぎて、なかなか授業に集中できなくなり、用意したものも思い出せなくなってきた。普段答えられそうな質問さえ答えられなかった。その原因は緊張したからである。指示がわかりにくい。学習者が大人なので、いちいち一緒に目を通すのがあまりにも彼らを子ども扱いしているようであると思ったのである。また、実習生が緊張して焦っていると、指示の内容も

不十分になり、さらにスピードも速くなった。そのため、学習者が付いていけなくなった。

自信なさそうな話し方をしたため、生き活きとした授業を作ることができなかった。

ある学習者はあまり平仮名に興味をもっていない。平仮名を導入するとき、書き方などをそのまま導入するのではなく、平仮名を連想できるゲームを通して導入することなどを考えて工夫しなければならないと思っている。

学習者の人間関係をこれからもっと考慮しなければならない。月クラスのある学習者には無駄な発言が多かった。残りの2人の学習者がそれに対し時々不満な顔をした。実習生は最初どうすればよいか悩み、うまく対応することができなかった。その後、実習生2人で相談した。そして、必要ではない発言をされたとき、「今はそれについては話していませんが」のように対応するよう決めた。このように、学習者からの無駄な発言が多いとき、実習生ははっきりとした態度で対応すべきだと反省している。

(担当：サウエットアイヤラム・初)

## 第4章 まとめ

夏季教育実習は日本語文化専攻が開講している「日本語教授法及び実習」という授業の受講生が運営し、実施する日本語のコースである。春季教育実習と比べ規模が大きく、参加者の募集から始め、ニーズ調査、シラバスデザインなども行うこととなっている。

本年度は、JET プログラムの ALT が少数しかいないこともあり、参加者がなかなか集まらず、クラス分けやシラバスのデザインにすぐに取り掛かることができなかった。参加者を募るため募集期間を延ばし、アルティアセントラルの愛知県内 ALT を対象としたミーティングへ出かけ、16名の参加者を集めることができた。しかし、遠方の参加者もあり、インタビュー形式のニーズ調査を電話で行うなどの対策を取らざるを得なかった。参加者の日本語力は差が大きくクラス分けも困難であった。このように最初はいくつかの問題が生じたが、ニーズ調査、コースデザインなどに挑戦することによって学ぶことが多く、また、実習生の授業見学などを通して互いの教授法について意見交換する貴重な機会も得られた。

実習生9名の国籍は日本、中国、台湾、香港、スリランカ、タイ、イギリスと7ヵ国にも渡り、それぞれの属性を生かした日本語コースとなった。7名は非母語話者であるため、日本語力に対する自信や参加者に受け入れられるかという不安が感じられることがあった。しかし、参加者の反応もよく、学習の動機づけにもつながったようである。クラスはゼロ初級、初級、中級、上級と4つに分けて行ったが、全員参加のオリエンテーションや最終日のパーティー、気軽に声をかけられる雰囲気作りなどのおかげで、参加者、実習生共にクラスを超えた一体感が作られた。

雰囲気作りに大きく貢献したのは、参加してくださった ALT の方々であった。協力的な姿勢、積極的な授業態度はニーズ調査や授業の実践において非常にありがたかった。実習生であることを理解し、辛抱強く最後まで真摯な態度で授業に臨んでくださったことに心から感謝したい。

最後に、夏季教育実習を行うにあたって多大なご協力をいただいた名古屋市教育委員会、株式会社アルティアセントラルの担当者の方々、そして2年に渡り実習生をときに厳しくときに温かく励まし、熱心な指導をしてくださった本専攻の鷲見幸美准教授に心から感謝しお礼を申し上げたい。

2008年2月

実習生一同